

## ごみゼロ 事業者・県民セミナー

日時：平成20年2月20日（水）14：00～16：30

場所：三重県総合文化センター

生涯学習センター2階 視聴覚室

（司会）

それでは、只今から、「ごみゼロ事業者・県民セミナー」を開会いたします。

はじめに、開会にあたりまして、三重県環境森林部循環型社会構築分野総括室長の大林より一言ご挨拶を申し上げます。

（大林室長）

皆様、こんにちは。

本日は、ごみゼロ事業者・県民セミナーということで、本当に多数の方にご参加いただきまして、ありがとうございます。環境森林部の大林と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。

皆様ご承知のとおり、これまでのような大量生産、大量消費、そして大量廃棄といった社会は、資源、地球環境そのものの有限性という問題の中で、立ち行かなくなって来ているのがはっきりしてきております。

そうした中で、ごみの処理につきましても、これまでのように出てくるごみを適正に処理するというのではなくて、やはりごみの発生・排出を抑制していく、そして再利用や再生利用を進めるということ、そうすることによりまして地球の資源の消費を抑えていく、そしてまた環境への負荷を低減させていく、そういった循環型社会を作っていくことが非常に重要になってきております。私たち自身の社会が持続可能であるようにするためには、そうした取組をしっかりと進めていく必要があるというふうに思っております。

また、近年、地球温暖化の問題が非常にクローズアップをされてきております。ごみ処理にあたっては、ごみの減量化を進めるにあたっては、やはりこの地球温暖化の防止対策ということの視点も含めて取り組んでいく必要があるのではないかなと思っております。

三重県としましては、ごみゼロ社会の実現に向けまして、平成17年3月、『ごみゼロ社会実現プラン』を県民の方々、事業者、NPOの方々、そしてまた市町の参画もいただきまして策定をしております。

現在、そのプランに掲げた取組を多様な方々とともに連携しながら進めているところでありますが、これまで以上に、その取組の輪を広げていく必要があると思っております。

そうした時に、もうすでにプラン策定から3年経っておりますけれども、県内各地でいろんな取組が進められております。そうした取組について、情報交換と言いますか、情報共有をしていただくとともに、お互いの取組事例などに学んでいただく、そしてまたその中から課題とか成果を整理して、次のステップに進んでいくということが非常に大事になってくると思っております。

そういった趣旨から、県といたしましては、事業者の方であるとか企業の方々、市町の方々に向けたセミナーを開催させていただいておるところでございます。

本日は、金沢大学の経済学部の准教授であります佐無田光様に来ていただきまして、「事業系ごみの減量化に向けた現状と課題」として、先生自身も金沢市のほうで取組に参加されておられまして、その金沢市の例も紹介いただきながら、講演をいただくということになっております。

続いて、伊勢市の取組、これは皆様ご承知のように、昨年9月21日から伊勢市全域の大型スーパー全店舗で、一斉にレジ袋の有料化に取り組んでおりますけれども、この取組について事業者の視点から、株式会社ぎゅーとらISO推進課の高橋様、そしてまた行政の視点から伊勢市環境部資源循環課の大野様からご紹介をいただくことにしております。

レジ袋有料化の取組について、経緯でありますとかご苦労話でありますとか、5ヶ月が経っておりますので、現状についてお話をいただけたらというふうに思っております。

ごみゼロ社会実現に向けては、本当にこれまで以上に取組をしっかりとやっていく必要があると思っております。本日のセミナーが、今日参加いただきました皆様にとって、新しい、さらなる取組を次に進めていく一つのきっかけとかヒントになれば幸いかなと思っております。

簡単でございますが、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

大林総括室長よりご挨拶申し上げます。

三重県の進めますごみゼロ社会に向けた取組につきましては、本日皆様のお手元の資料の中に『ごみゼロレポート』というものが入っていると思います。

昨年度平成18年度に県が取り組みましたいろいろな取組が載っております。実際に取り組んでいただいた方の生の声もたくさん入っておりますので、一度お目通しをください。よろしくお願いいたします。

それでは、早速只今より金沢大学経済学部准教授、佐無田光様より、「事業系ごみ減量に向けた現状と課題～金沢53ダイエットネットワークの取組から～」と題しまして、ご講演をいただきます。

佐無田先生は、現在、金沢大学にて教鞭をお執りでいらっしゃいますが、これからお話しいただきます金沢市のごみ減量の取組にも関わっておられます。また、調査、ご研究の中で三重県にも何度かお越しになったことがおありと伺っております。

それでは、佐無田先生、よろしく願いいたします。

(佐無田)

はじめまして、こんにちは。佐無田と申します。

金沢大学で地域経済論というものを担当しております。北陸は石川県の金沢というところから今日はまいりました。よろしくお話ししたいと思います。

私は、専門は地域経済論というのをやっておりますので、本来、この廃棄物政策は全然専門ではないのですが、エコタウンとかリサイクル産業みたいなところを追いかけていた経緯もありまして、金沢市に協力を求められて、参加させていただいている次第であります。そこで廃棄物政策の現場での議論や実践の取組を中心にお話させていただきたいと思っております。ですから、専門家という立場ではないのですが、実践の話から少しでもご参考になるようなことがお伝えできればと思っております。

金沢市では、2004年の10月、いまから3年半ほど前に「53（ごみ）ダイエットネットワーク」という組織を立ち上げました。これは他の県市にもいくつか似た事例はあったのですが、行政がごみの問題に関心を持っている市民に公募をかけ、プラス、ごみ関係の取組をやっていらっしゃる収集業者さんであるとか、排出事業者さん、あるいはリサイクル事業者の方々に声をかけて、そしてその方々をコーディネートする役割として学識者4名入ってくださいというような形でスタートしたわけであります。

最初は90人ぐらいに声かけしましたが、実質上は30～40人ぐらいが入れ代わり立ち代わりで運営しているというような状況であります。リサイクル推進課が最初こういう組織を立ち上げた理由としては、それまで行政のほうでいろんなごみ収集、あるいはリサイクルに関する制度を整えても、それは一体現場の実態に合った形になっているのかどうか、ごみ排出をしている現場であるとか、あるいは市民団体であるとか業者の立場から見て、もう少しその制度であるとか取組内容として改善できるところはないかという意見を吸い上げることと、そこでの実践活動を通じてごみの排出抑制、削減に寄与しながら、埋立地

なども厳しい切迫状況にあったので、問題解決を探れないかということで始めたものであります。

どういう組織にしていくかという議論の過程では、ごみ問題というのをとらえていく時に、行政の立場あるいは市民の立場、事業者の立場、それぞれ立場は異なるわけですが、それらを横断的に意見交換できる場というのを組織することにまず意味があるんじゃないかという議論がされました。また、地域全体としてごみ問題に対応していく「ごみ責任文化」というふうな言い方をしていますが、これを醸成するような普及啓発の役割を担っていくということも組織のミッションとして掲げました。

大きく四つの部会に分かれておりまして、一つは普及啓発部会。ここがやっているのは、ごみを排出したはいいいけれども、それがリサイクルに回っていると言われるが、実際にどう分別され、回収され、そしてリサイクル処理されているのかという実態が市民の目からなかなか見えないということもあって、その実態を掴むような見学会を開催したり、あるいはごみダイエット塾という形で普及に係わるようなことをやったりしています。あるいは卒業シーズンに、どうも大学生が住んでいるような町内では粗大ゴミが不法投棄されていくということが多くと問題視されておりまして、首都圏の大学でやっているのを真似て4年生が卒業する時に、使わなくなった家電や家具を大学内のサークルが他の新入生などに融通してやる、そういうリユース市というものができないかということで、受け皿になるサークルを探して、2年か3年ぐらいかかりましたが、リユース市という形で運営しております。

それから、紙ごみ・生ごみ減量部会（合同）があります。もともと紙ごみの回収というのは、市や県が主導してきたのではなくて、歴史的に小学校単位で小学校のPTA会が中心となって、子どもたちが新聞紙などを集めていくという取組がやられていたわけなんです。郊外化で都市が広がるにつれて、そういう町会が十分に機能しない地域もあって、そういった地域では一般廃棄物の中に混ぜられて紙ごみなどが捨てられていたという実態がありました。これに対応するために、郊外のスーパーの一角をお借りして、そこで月1回、紙ごみ、新聞紙、段ボール、雑誌類等々、分けて持ってきてくれば、そこで回収しますよという取組を始めました。紙収集業者さんやスーパーの協力を得て、月1回運営しています。これはもともと名古屋でやられていたのをモデルに真似したのですが、それなりに成果が上がっています。ただし、その担い手としては結構ボランティアに参加して運営してもらっているのです。数ヶ所以上にはなかなか広げられないという現状もあります。

そして三つ目が、私がコーディネートを担当している事業ごみ減量部会であります。ここが恥ずかしながら一番動きが遅くて、事業系のごみの場合だと、排出事業者も収集事業者も利益に係わる問題なので、そう簡単にこれと決めて動き出すことが難しく、だいぶ議論に時間がかかりました。

今年度からはようやく少し具体的に動き始めたという段階でありまして、一つは、事業者の中には非常に分別、減量化を進めている事業者もあります。ところが、そういった進んだ事業者だけではないわけですね。全然やっていない、進めていない事業者もあって、進んでいるところはよく取り上げられますが、事業系ごみをもっと削減していくためには、そうでない事業者に取組みを普及させていかなければいけない。どうすればいいのか。そこで、進んでいる事業者さんをモデルにして、どういうふうにごみ分別、そして減量化を進めていけばいいのか分かりやすく示すツールを作って、社内イントラネットを使ってそれを案内するというシステムづくりをやろうというのが、あとでお話しするごみ分別ナビです。

それから、大規模な事業所では何とかごみ対策に取り組めるけれども、小規模なところはなかなか難しいという状況があります。小規模な事業者が共同して取り組む仕組みを何とかできないかということで検討しているのが、商店街の分別回収実験の話です。そして、それらの取組事例を紹介して、他の人たちにも参考にしてもらえそうな事例集づくりなどをやっております。

具体的な話に入りたいと思います。まず一般廃棄物の排出量の推移です。お手元にお配りした資料とちょっと数字が違ってありますが、2007年の数字には目標値が含まれていたということで、2006年の数値のほうが確実だということで差し替えさせていただきました。

これで見ますと、家庭系の燃やすごみは、7年間で3,600トンぐらい減っています。埋立ごみも3,000トンぐらい減っています。これに対して資源ごみという形でリサイクルに回るほうが4,600トン増えていて、集団回収というのが先ほど言った校下単位で紙ごみを集めてリサイクルしているものですが、これも一定量あります。一方で事業系のごみでは、燃やすごみとして55,770トン出ています。家庭系ごみの3分の2程度の量です。これも減ってはいるんですが、問題は事業系の不燃ごみというところですね。ここは家庭系の埋立ごみの2倍ぐらい出ています。産業廃棄物ではなく、市の運営しているごみ焼却炉、ごみ埋立場に入ってしまったごみですが、これがだいたい15,000トンぐらい出ていて、なかなか減っていないという現状です。そして、事業系ごみでは、資源ごみに回っている部

分が非常に少ないという状況があります。

なぜこういう状況になっているかということをお話いたします。事業系一般廃棄物の処理体制について、まず、事業系一般廃棄物というのは何かと言うと、事業系から出るごみは産廃と一廃に分かれますが、産業廃棄物は、特定物 21 種類というもので規定されています。それ以外の廃棄物が事業系一般廃棄物ということになるわけですが、主として事業の中で出るものじゃないもの、例えば従業員の飲食に伴う塵芥などは事業系の一般廃棄物という扱いになります。

ところが、従業員の飲食に伴うビン、缶、ペットボトル、容器包装プラスチック、例えば弁当殻みたいなものですが、これはどっちに入るのかというのは、実は市町村によって規定がさまざまであります。金沢市では、従業員の飲食に伴って出る容プラ、弁当殻などは一般廃棄物として市が処理義務を持って処理しますよとなっていました。他の市町村では全部産廃だという市町村もあって、それぞれの市町村ごとに対応が違うという問題があります。これはややこしい問題で、例えば学校でペットボトルの飲み物を飲みますね。その飲んだあとの容器が、教員が飲んだものは従業員が飲んだものなので、これは生活ごみというふうに考えて、一般廃棄物と見られると。しかし、生徒が飲んだ飲料のペットボトルは、これは教育という事業活動から出たごみと見られるので産廃だというふうに、ややこしい区分になって、排出の現場ではけっこう混乱もあります。

事業系一般廃棄物の処理体制をまとめると、事業系廃棄物の処理責任は、基本的には排出事業者がやる排出者責任と規定されていて、一方で一般廃棄物の処理義務は市町村にあると法律では規定されています。

そうすると、いったい事業系一般廃棄物はどっちに責任があるのかということになります。これは事業者が排出責任でちゃんと処理しなければいけませんよとされています。但し、処理義務が市町村にあるので、一般廃棄物の処理運搬を市が許可した業者、ここを通じて市の処分場なり焼却炉が受け取る形になります。市の処分場や焼却炉は有料でその処理を引き受けるわけなんです。この処理料金は、例えば焼却だとクリーンセンターというところで 20 キロまで 168 円、埋立の場合は 2 トンを超える場合は 100 キログラム 945 円という価格設定になっていて、産業廃棄物の処理料金に比べると 5 分の 1 ぐらいの格安です。つまり、事業者としてはできるだけ一般廃棄物で出したほうがコスト安になるという状況があります。

この処理体制の状況から導き出される問題は何かと言うと、まず一つ目の問題点は、ご

み減量計画主体というものが不明確になってしまっているという問題です。一応排出者責任というものが規定されているので、事業者が責任を持って処理しなければいけないということになっているのですが、全体を責任もって計画する主体がない。

つまりそれはどういうことかと言うと、家庭系ごみに関しては市の直営などで収集業者が収集回収するので、生ごみについては何曜日、プラごみについては何曜日、ビン・缶・ペットボトルについては分けてこの日に出してくださいよという指示が一般家庭に行っているわけですね。これに対して事業系ごみの場合は、こういう指示は特に決められていません。各事業者がそれぞれ責任を持ってリサイクルしたりあるいは処理したりしなさいよとなっておりますので、基本的には分別してごみ減量化させることも事業者ごとにやってくれということで、一貫した体制にはなっていないという問題であります。

一応、金沢市の条例では、大規模排出事業者に対しては、廃棄物減量化計画書というものの提出が義務付けられております。これは他の市町村でも結構あるものですが、しかし、強制力は強くありません。3分の1程度は計画書を未提出であったり、提出しないところは会社名を公表するという罰則規定もあるのですが、実際には適用されていません。つまり、事業系ごみは事業者の責任でやるということが決められているので、市からどうの、強く言う立場には本来ないんじゃないかという立場を一貫してとっているわけなんです。そこまで市が口を出すようになると、今度は市の責任になってしまうというのは、ちょっと筋違いなんじゃないかという立場が市にはあるということです。

一方で、事業所の数は総数3万ぐらいあるわけです。そのうち許可業者と契約していると把握されているのは約4千件ですので、他の多くの小規模事業者は、おそらくですが、確認されていませんが、家庭系のステーションに混ぜて出しているのではないかと推測されています。これらの事業所に対して、もっときちんとリサイクルしましょう、あるいはこういうルールを守りましょうという行政指導であるとか、あるいはごみパンフの配布みたいなことも現実にはできていない。リサイクル推進課としては、事業所すべての所在地を把握することができません。これは市役所としては税の徴収のために事業所の所在地は分かっているはずですが、それをごみ収集のために活用するということは、行政としては情報管理上よくないということがあって、事業所指導みたいなことすらできていないという状況にあります。これは他の都市でもある程度は共通なのではないかなと思います。事業所系のごみについては、市町村の最終責任にはなっていないという現状ですね、ここに難しさがあるわけです。

そういう法令上の問題点も含めて限界がある中で、しかし、リサイクル推進課としては、やはり事業所系からのごみがたくさん出ていて、それが市の埋立場を圧迫している要因にもなっているので、何とかしたいということで、事業系部会では現状把握から一緒にやっていったわけです。そこで明らかになってきた問題の一つは、ごみの分別・減量が現状では全然事業所系では進んでいないという実態でありました。

一つは、家庭系ごみと違って、収集が自由競争でなされていて、22社という形で許可業者が決められているのですが、22社の間では自由競争でやられています。そうすると、収集業者としてはできるだけコスト削減をしなければいけないということがあります。コスト削減のためには、分別して回収するよりも、とにかくパッカー車にギュッと押し込めて一度にたくさん持っていくということが大事なことになっています。排出事業者のほうで環境意識があってリサイクルを進めるために分別したいという場合でも、例えばプラごみと生ごみと紙ごみを分別したとしても、それを受け取る収集事業者のほうではそれらをまとめて、とにかくパッカー車の中に詰めるという形で混載してしまう。結局、分別されたものが混ざってしまうという問題ですね。

あるいは、収集業者と排出事業者というのは個々に契約をしますが、その契約は多くの場合回収回数で料金が決まります。ということはどういうことになるかというと、分別して、例えばプラごみと燃やすごみと二つに分けた場合、それぞれ別々に回収してくださいということで2回来てもらおうと、今までの料金の2倍かかる。これはちょっと排出事業者としても、このコスト負担を許容してまでなかなかそっちを選ぶというのは難しいという状況もあって、それで分別が進まないわけですね。

さらに、自由競争なので、隣り合う事業所でも、こっちの事業所が使っている収集業者さんはA社、隣の事業所が使っている収集業者さんはB社というふうな場合があります。ですから、例えば家庭系のように曜日を決めて、ある曜日はプラごみだけ一度にまとめて回収するとしたほうが、おそらく分別も進むし、収集業者としても効率性が上がるのではないかと考えられるのですが、自由競争の下でやっているのだから、例えば行政が勝手に、ある地区はみんなA社さんで回収しましょうというふうには指導できません。かといって、収集業者ごとに曜日を定めるのも、集めるごみの量が足りず非効率すぎてできません。

これはもう本当に収集体制を大転換して、地区ごとに収集業者を決めるやり方にしたら効率性が上がるかも知れないですが、従来やってきた慣習的な問題もあって、そういうふうに区割りをする、どこかの事業者は従来よりも損をしてしまうんじゃないかという問題



に手を入れることとなりますから、非常に政治的に厄介な問題であります。地区単位での再編までは、現状ではなかなか難しく、分別が進まない状態というのが続いてきています。

さらに、容器包装プラスチックごみの問題があります。これは法律で決められて、現状は家庭系から出る容器包装プラスチックは容リ協会（容器包装リサイクル協会）を経由して、入札でリサイクルに回るというシステムが全国的に作られているわけですが、この中に、事業所から出る一般廃棄物の容器包装プラスチックごみは含まれないんですね。これは国が決めた制度上の条件でありまして、事業系一般廃棄物プラスチックごみというのは、リサイクルに回らない。しかし出てくる、どうするかということで、金沢市では仕方がないので市の埋立地に回っておりました。埋立に回っておりましたけれども、これはちょっと問題なんじゃないかということで、ようやく2年前にペットボトルのみ搬入禁止になり、今年の4月からは容器包装プラスチックごみも搬入禁止となります。つまり、プラごみは全部「産廃」として出してくださいよという形によりややくこの部分だけは変化がありました。

このように、問題点については議論していく中で、少しずつ53ダイエツトネットワークとしても理解してきましたが、この現状認識だけで実際2年ぐらい堂々巡りしておりまして、そこからどういうふうに取り組むのかということと行き詰ってしまう。その中で、ようやく近年始めたばかりのことなんです、いくつかご紹介したいと思います。

一つは先ほども申しましたけれども、事業所のごみ分別ナビというのを作成してはどうかというものです。これは、福井リコーの事業所でやられていたものをヒントにしたのですが、廃棄物削減計画の策定手順というのは、進めている事業者はよく分かっているんですが、実はこれから始めるという事業者はどのようなふうやっていいかよく分からない。まずはこの手順を示してはどうかと。

具体的に言うと、まず事業所から出てくる廃棄物のごみの内容物をチェックしましょう。どんなものがそれぞれどのぐらいの重量で出てきているのかということ把握した上で、どういう分別が可能か、どういうふうすれば収集できるかということ、収集業者さんと話し合ひましょう。その出てくるごみの中には納品業者さんにそのまま持ち帰ってもらえばいいというものもあるので、それを今度は、納品業者さんと交渉して回収してもらいましょう、などというような形で、廃棄物削減の計画を立てる手順をツールとして示そうということを考えました。

さらに、そこから分別に進んでいくには、社内で分別体制を徹底してもらわなければい

けません。これがなかなか難しく、社内の中でリサイクル担当の部署の人が一生懸命「分別、分別」と言っても、なかなかそれは浸透していかず聞いてもらえない。徹底するためには社内教育が重要なのですが、そこでひとつ社内のイントラネットを使って、分別早見表、つまりどのごみをどこに分別したらいいのか一目で分かる、そういうシステムを作ってみようと思いました。あるいはどのごみを社内のどこに持って行けばいいのか、何のごみが何曜日に回収になって、どういうルートで回収されリサイクルされるのか、などの情報を示すシステムをモデル的に作ってみようということをやっています。これは53ダイエットネットワークのメンバーである、金沢信用金庫という金融機関、それから渋谷工業という機械工業のメーカーで実験的に入れてみようとしているわけなんです。そこで具体的にどんな運用上の問題があるかということを確認しながら、一般的な事業者でも使えるようなものとして広めていきたいというのがここでの狙いがあります。

さらに、処理する廃棄物の量を減らすことで、企業にどれだけメリットがあるかを示したいというのが次のステップです。それは従量制、すなわち重さで取引する、契約するというふうに変えないと、なかなかうまくいかないのですが、重さで処理料金を決めるように収集業者と契約して、そしてそのごみで出てくる量を減らしていけば、これは明確に企業にとってコスト削減になっていきます。あるいはリサイクル可能な資源として有価で持って行ってもらうものを増やしていけば、それも明確に企業のコストにプラスの影響になってくる。という形で、コスト削減効果をきちんと社内に報告するところまでやっている事業所もあります。本当はこの分別ナビでも、コスト削減効果を出すところまでやっていきたいということを議論はしていますけれども、まだそこまではいっておりません。

この表は具体的な一例ですが、金沢信用金庫さんでやられている分別の仕方です。燃やすぐみのボックス、リサイクルできる紙のボックス、それからプラスチックは事業系のプラスチックと一般廃棄物のプラスチックに分けられています。これは事業系一般廃棄物の廃プラが埋め立てられていた時代のもので、今後は廃プラは全部産廃になるわけですが。そして燃やさないごみボックスですね。こういうふうに分けて、それぞれ細かく、どういうものだったらどこに入りますよというものを見られる、こういう一覧表を作って案内していくということでもあります。

次の写真は渋谷工業の分別の体制ですが、可燃ごみ、プラごみ、ゴム類、白コピー紙など分けられていて、それぞれのところにどんなものが入られるかがごみ箱ごとに分けて書いてある。多くの事業所でやっている取組としては、オフィスに置くごみ箱をなくすと。

それぞれのデスクのところにごみ箱があったらどんどん混ざってしまうわけですね。1階に一つのごみ箱にするとかにして、そこに持って行って分けて捨てなければいけないようにしているわけです。それで、どこにごみを持って行ったらいいのかというのが、先ほどのナビで案内されて、どこの階にどんなごみ箱があるかが分かるようになっています。

この写真は日海不二サッシさんです。それぞれのごみ袋の中に入っているものが、きちんと分別されて入っているかどうかを自己チェックする仕組みになっています。日ごとに担当者が決められて、ごみ袋を全部回収してもらえるところに持って行く。持っていく移動時に、プラスチックの中に禁忌品、ビニールテープとか弁当殻とか混ざってないか、弁当殻はちゃんと水洗いされているかというふうなことをいちいちチェックしてくださいよというチェックポイントが付いています。そして、ちょっと小さくて見えにくいですが、「重量」という欄があって、それぞれ何キログラムか計ってから持って行く。どれだけ減らしているかということが見えるような体制を組んでいます。

この掲示は産廃のほうなんです、「分ければ資源(お金)、混ぜればただのごみ(¥0)」と標語があって、それぞれのをどういうふうに分けましょうということも書いてありますし、それぞれ売却単価がどれぐらいになりますよということを社内に明示してやっています。

これも産廃になるんですが、木製のパレットです。この上にいろんな部品を置いて搬入されるわけですが、これが従来はごみになっていました。しかし、それぞれのパレットを持ってきた業者が、持ってきたパレットをここに置いて行きますので、持って帰ってくださいよとしています。持って帰らなければいつまでもその会社名が付いたところにうずたかく積まれていて、他の人たちにも見られますよというふうにして、納品業者に持って帰ってもらうよう促しています。こういった取組を進んでやっている事業者さんの情報をひろめて他の事業者にも普及させていく仕組みがなかったので、こういったものを紹介していくことを53ダイエットネットワークでやっているわけです。

二つ目の取組みとして、商店街における分別回収ですね。先ほども言いましたが、隣り合う事業所でも違う収集業者を使っているのを共同で回収するという形にできないかということ部会では検討しました。そのモデルとなるのは工業団地か商店街だろうということで、最初、工業団地に話を持っていったのですが、うまく協力が得られませんでした。次に商店街に話を持って行ったところ、堅町商店街という、金沢では一番賑わっている中心市街地の商店街ですが、ここで結構先進的な取組をやっているということが分かりました。

商店街組合指定の有料ごみ袋を作って、組合が全体で収集業者さんと契約しています。で、指定のごみ袋に入れたものだけを曜日を指定して持って行ってもらう。燃えるごみと段ボールだけが分けられていて、契約業者が共同回収しているという状況がありました。これを53ダイエットネットワークとして話し合いに行って、いやもうちょっと改善できるんじゃないかということをご提案したわけです。

まずは店舗アンケートを53ダイエットネットワークが主体となって実施をして、内容物を確かめました。そうすると内容物は紙類がほとんどであったわけです。新聞とか雑誌、チラシ、その他紙ごみ。これらを分けて出すと、今、古紙の価格は非常に上がっておりますので、有価で回収してくれる。そういったものを分けて、ごみの量が減ってくれば、契約業者との契約価格を下げるということもできるんじゃないかと提案して、分けてもらうようにしました。

でも、これで終わりじゃないんですね。その後に、このネットワークのメンバーで収集現場を視察に行って、実際には新聞と雑誌だけは分けられているけれども、その他チラシとかいろんな紙ごみは結局ごみ袋の中に混ざって出されているという実態を見て、実はこれらも全部きちんと分けておけば、リサイクルのほうに回収してもらえますよということをご再提案しました。こんな取組を地道ですが、やっております。

3つ目に、もうちょっと広い点からも、市と協力しながら取組をしなければいけないということで、今まで事業所にはパンフレットすら配布されていなかったわけですが、事業系ごみをどういうふうに出し減量すればいいかというガイドラインを市が作って配布する、その原案と一緒に議論しております。

ガイドラインの内容は、一つは分別と処理の仕方ですね。法令手続きとか、どんなものが事業所系一般廃棄物で、どんなものは産廃になりますよとか、こういう品物だとこういう業者が回収してくれますよというのが細かく書かれています。ただ行政だけに任せてしまうと、ここまできちんがちです。行政にとっては法令手続きというところが大事ですので。

で、この部会としては、次の部分を提案したわけです。まず、ごみ減量の仕方をきちんと案内するものにしたほうがいいと。例えば分別ボックスをこういうふうにしたほうがいいのか、分別早見表を例示してみたほうがいいのか。あるいは事業所の中でどこまできているかというチェックリスト、これは名古屋市のガイドラインを参考にしましたが、例えば文房具などでも、文房具を納品してもらった業者に、使い終わったものを今は

ほとんど持ち帰ってもらえるわけなんですけど、そういうことを頼んでいるかとか、あるいはダイレクトメールも、今後不要ですと返せば、送ってもらわなくなりますよとかいうのも含めて、チェックリストを付けたらどうかと話し合いました。あるいは他の事例で真似できる先進事例などを紹介してはどうかとか。こういうふうにごみ減量の具体的なやり方を案内していくという中身です。

さらに、ごみの減量化、資源化のメリットを訴える部分もあります。企業イメージが高まったり、企業にとってコスト削減になったりと。ただしこれは回収回数で料金が決まっている場合はコスト削減にならないので、そこはネックではあるんですが。それから、いろんなところを調査すると、結構重視されていたのが社員の意識改革でした。ごみをきちんと出す体制を社内で作り出すことによって、つまり事業をきちんとコストも含め管理しているという生産現場ができて、これが取引している他の企業から見ると、「この会社は、すごくきれいできちんとしているな」というイメージを与えます。社員の意識改革というのが、実は一番大きな効果だったという話を聞いたので、そういうメリットなども提示しています。こういった内容を提案して一緒に議論して、行政のガイドラインに取り入れてもらっているということです。

ここまでは、今、作っている途中です。3月中にはできるという話ですが、このガイドラインを基に、来年度は研修事業をやりたいと考えています。大規模事業者は廃棄物削減計画を作って、廃棄物の管理担当者を置かなければならないと条例で決まっておりますので、それを活かして、企業の管理担当者の人たちを集めて、研修をやってみたらいいんじゃないかということを議論しております。

最後に今後の課題なんですけど、三重ではまた状況が違うかも知れませんが、この53ダイエットネットワークで議論している中では、やはりもう少し踏み込んで行かなければどうしようもないじゃないかという話が出て来ております。一つは家庭ごみ収集の有料化ですね。金沢市はまだ有料化されておられません。事業系ごみが、収集ステーションのほうに流れ出てしまうのも、家庭系のごみが有料回収になってないからです。家庭系ごみは家庭系ごみ袋で統一し有料化する、事業系のごみは事業系のごみ袋で統一し有料化するということは、どうしても議論としては踏み込まなければいけないだろうということです。

あるいは縦割り行政の問題ですね。金沢市の場合は、リサイクル推進課が廃棄物行政の現場担当なのですが、廃棄物行政のルールを作るほうは環境総務課というところなんです。リサイクル推進課の下でこの53ダイエットネットワークはやられていますが、ここでの議

論がルールを作る環境総務課に通じていないという縦割りの問題がありました。そこで、年に1回は共同で話し合いをする場を持って、事業系一般廃棄物はやっぱり共同収集体制に進んで行かなければいけないんじゃないか、そういうルールづくりをしなければいけないんじゃないかというディスカッションの場を置くようにしています。これも話し合いの提起というところまででとどまっていて、まだこの縦割りの壁はなかなか覆していないというのが現状であります。

そして、将来的には事業系ごみ収集システムの改革ですね。搬送容器の共通化であるとか、家庭系ごみみたいな品種別収集日の設定、あるいは収集拠点を置いたりというようなことは、今後議論していかなければいけないだろうと考えています。但し、一般廃棄物事業組合というのがありますが、事業者と事業者の間では利害の問題にもなってきます。できる事業者とできない事業者があり、できない事業者のほうは淘汰されてしまうんじゃないかという問題もあって、事業者の中では問題提起しにくい部分ではありますが、こういったものも恐れず問題提起をしていきたいと思いますというところでもあります。

以上で私のほうから金沢市の事例の紹介は終わります。三重のほうではまた状況はいろいろ違うかと思います。市町村ごとに実は結構制度というのは違ってきて、状況も違うわけなんですけど、共通する部分もあろうかと思しますので、ご参考になった部分があれば幸いです。どうもありがとうございました。

(司会)

佐無田先生、どうもありがとうございました。

事業者の皆さんにおかれましては、普段お感じになっておられます課題ですとか問題認識を新たにさせていただけた面もあったかと思えます。また、ごみの減量ということを通じまして、事業者の方、行政が協働して取り組まれている金沢53ダイエットネットワークの取組、ご参考させていただける部分もあったかと思えます。どうもありがとうございました。

それでは、ここで休憩を取らせていただきます。

— 休 憩 —

(司会)

それでは、次のテーマであります「伊勢市のレジ袋有料化の取組」についてお話をいただきたいと思えます。

皆様もよくご承知のことと存じますが、伊勢市では昨年9月21日から市内全域のスーパ

一が全店揃って一斉に、食料品売り場でのレジ袋を一斉に有料化されました。これは全国初の取組事例でございました。有料化に至るまでは、有料化に向けた検討会を組織され、商工会や婦人会ですとか、商店街連合会、NPOの方々、その他の団体の皆さん、有識者の方、住民の方、それから市のご担当者の方、そして私ども県もそのメンバーの一員として加わらせていただいておりますけれども、さまざまな方々で何度も議論を交わされ、夏場の非常に暑い時期での店頭での事前キャンペーンですとか、協定調印などを経まして、有料化がスタートしまして、現在、約5ヶ月が経過しようとしております。

現在、伊勢市役所さんのほうには、全国のさまざまな自治体関係の方々からのお問い合わせや視察も相次いでいるとのことですが、本日はこの伊勢市のレジ袋有料化の取組につきまして、まず行政の視点で伊勢市環境部資源循環課の大野課長補佐様よりお話をいただき、引き続き、実際にレジ袋を有料化された7つの事業者の皆様の中から、株式会社ぎゅーとらさんのISO推進課の高橋様より、この取組へのご参画をどのように進めたのか、そして有料化された後、現場の店頭ではどのような状況となっているかなど、実際の生の声もお聞かせいただきたいと思っております。

それでは、最初に伊勢市の大野課長補佐様、よろしくお願いたします。

(大野)

皆さん、こんにちは。伊勢市の資源循環課の大野でございます。

今日は、はじめに私のほうから全体の流れについて説明をさせていただいて、先ほどご紹介のありました事業者の立場からということで、ぎゅーとらさんの高橋さんのほうからお話をさせていただきます。

先ほどご案内ありましたように、9月21日から市内の大手スーパー21店舗一斉に有料化をスタートしました。

私どもの市長は2年前に市長になりまして、合併したのが2年前、17年の11月だったんですが、その時の市長が実は急に亡くなりまして、18年4月に現在の市長が就任しましたのですが、突然のことです、半年ほどかけて市政を見る中で、その年の10月にマニフェストを発表させていただきました。「環境・健康・観光」：3Kと、この三本柱にまちづくりを考えていくという形で、まず環境でございます。CO2削減、ごみゼロ推進ということで、環境と共生できるまち。

続きまして健康、メタボリック症候群対策、ちょっとご不幸もあったんですが、市長をはじめとした7人、ウェスト90センチ以上ある人を選んで、3ヶ月で85センチ以下にす

るといような取組をさせていただいて、市長も 84.5 センチに 3 ヶ月でなりました。

それから続いて観光ですが、昨年、一昨年と式年遷宮のお木曳き行事がございました。

この 3 本を大きなまちづくりの基礎として挙げさせていただきました。

続きまして、今までの伊勢市の取組としまして、平成 13 年 12 月にオリジナルマイバッグを全戸配布いたしました。これにつきましては、デザインも含めどれにするかを市民の方に決めていただいて、この取組も全国で初めてではなかったかと記憶しています。

続いて 15 年 4 月から燃えるごみの指定ごみ袋制度が始まりました。もともとごみの有料化も含め検討はしておったんですが、まだちょっと時期が早いんじゃないかと。この指定ごみ袋制度を採用してそれなりの効果があれば、有料化については再度検討するというところでございます。

それから、燃えないごみ、ペットボトル、プラスチック、これがすべてレジ袋で出せない仕組みになっております。例えば燃えないごみ、こういった容器に出していただいております。もともと袋だったんですが、その中に例えばビンとかプラスチック、たくさん混じっていました。埋め立てる場所が非常に手狭になって、これ以上埋め立てられないということで、何とか燃えないごみの中から資源となるものを分けて、埋立ごみを減らそうという目的で始めました。それからペットボトル、プラスチック、他の自治体では専用の袋とかレジ袋で出してもらっていますが、伊勢の場合はネットをかけて、その中にそのままの状態を出していただいております。ですから、ごみというのはレジ袋で出せない。そういうふうな仕組みができておりました。

それで、ちょうど昨年 4 月に市長のほうから、今までこういったマイバック配布とかいろいろ取組をする中で、何とかもっと大幅に削減してマイバックを推進する運動はできないかと。地球温暖化防止と、それからごみの減量に向けて、さらなる推進を図る目的で何か取り組みめというような指示がございました。

それで、私ども、その有料化実施前にスーパーを回らせていただいて、持参率を調べましたら、平均して約 22% でした。ぎゅーとらさんにおきましては約 30% と、高いところもございまして、ジャスコ伊勢店で 1 店舗あるんですが、その店舗におきましても全国ジャスコの店舗でもベストテンに入るような持参率ということで、よそと比べてももともと高い持参率であったというような状況がございました。

それで、取り組むに当たっても、行政だけ、あるいは事業者だけでやってもうまく行かないんじゃないかということで、市民・事業者・行政が連携して取り組んでいく仕組みづ



くりを考えていくと。そういった方策などについて、市民・事業者・行政が自由な立場で意見や情報交換をしていただいて、取組を考えていく検討組織を6月1日に設置しました。その名前が「ええやんか！マイバック（レジ袋有料化）検討会」でございます。

第1回のこの会議で、この名前を決める時に約1時間半ぐらいかかりました。と言いますのも、括弧書きで「レジ袋有料化」と入っているんですが、非常に事業者の方がこの「有料化」というのを嫌うんです。事業者は儲けているんじゃないかと。この名前を全面的に出したくないと。ただ、市民団体の方が、今までこういった取組をして、やっぱり限界じゃないかと。やっぱりはじめから有料化を視野に入れて議論していこうじゃないかと。だからやっぱりこういうネーミングが大切じゃないかと。

この時にいろんな意見が出まして、1時間半かけた結果、本当に皆さんの意思統一ができて、結果的には本当に短期間でできたというわけなんです、最初にこの名前を決めたことが、目標に向かって三者の連携した取組が本当に一つになった要因ではなかったかなというふうに思っております。

メンバーでございますが、市民団体、もともと伊勢市には「ごみ問題市民会議」と言う、ごみの減量、資源化に対する団体がございます。それから婦人会、PTA、市民団体、それから事業者としまして7つの事業者がございます。それから商店街さん、商店街さんは伊勢市に10の商店街があるんですが、その取りまとめをしている商店街連合会さん、もともとマイバックを配布して、その後のキャンペーンもこの商店街さんと一緒に連携してやったこともございます。それらについては、はじめから有料化は難しいなというような話だったんですが、取組については全面的に協力するという形で、当初から支援をしていただきました。

それから、協力団体として商工会議所、ここには環境対策委員会がございまして、その委員長、副委員長さんに出させていただきました。それから地球温暖化防止センター、このセンター長さんは三重大学教授の朴先生で、この検討会の座長さんになっていただいております。それから行政、伊勢市、それから三重県のごみゼロ推進室長さんにも入っていただいております。

役割分担としまして、当然、事業者、市民団体、行政、それからこの検討会が連携しながらやっていくと。そして、市民団体はPRをしていただく、事業者は目標を設定していただいて取り組み、結果をそれを報告していただいて、それを評価して、伊勢市のホームページ、広報などで紹介していくという内容でございます。

一番はじめに、やはりこの取組を広く市民の皆さんに分かっていただくということで、イベントを6月17日にさせていただきました。まずはじめに、小学生の方にコーラスをしていただきました。この有緝小学校なんです、この学校の近くに勢田川という川がございまして、もともと環境に非常に熱心な学校でございまして、そこを何とかきれいにしたという思いを込めたコーラスで始めさせていただきました。講演としては三重大大学の朴先生、それとこういったレジ袋有料化に全国最前線で取り組まれているイオンの上山さん、この方なんです、多分テレビでご覧になった方もおみえになると思うんですが、それからシンポジウムと。このシンポジウムの中には、小学生の方も入って見えまして。私どもの市長も、一番はじめから、一番最後までおりました訳です。

この中で、このイオンの上山さんが言われたのは、実は去年の1月、京都のほうでイオンさんはジャスコ東山二条店で有料化を始めまして、そこもはじめ20%だったのが、約3ヶ月で80%になったということでございます。この方が言われたのは、レジ袋、本当に例えば地球温暖化防止にしる、ごみの減量についてもほんの微々たるものだ。ただ、事業者の方も市民の方も一緒になって取り組めるのがこのレジ袋じゃないかと。これをきっかけにライフスタイルを見直していただければと。

この方が言っておられるのが、通常、皆さんもそうなんです、車に乗る時シートベルトを、多分今しないと気持ち悪いというような状況だと思います。ですから、このマイバッグも、今、携帯電話を皆さん持ってみえると思いますが、多分そういったものと同様に生活に溶け込んでいけばであれば、持つことに抵抗はないんじゃないかと。持つことがもう当たり前になるのではないかと。

それと、上山さんはいろいろ転勤もある方だったので、例えば分別が10ある街から少ない街に変わったら非常に気持ちが悪いなど。ですから、マイバッグを持って買い物をしないと気持ち悪いなど、そんなふうになっていくんじゃないかと、そう言われておりました。

それと、この中で事業者の方が一番不安になったのが、お客さんが離れていく、それからレジ袋の有料化が始まった当日、知らない方がお見えになると、そこでトラブルとか苦情が起こると。この検討会の中で、市民団体の方からも、やっぱり事業者の方を言葉が悪いですが、見殺してはいけないなど。何とか皆さんで支えてあげないといけないと。

実は、京都の事例を言うんですが、京都も実ははじめ、東山二条店のお客さんは減ったらしいです。そこで、そういった市民団体の方がそういったお客さんが逃げないようにと言いますか、そういった買い控えをしないように、いろんなキャンペーンをされたという

ように聞いております。そこでこの7事業者21店舗あるんですが、各店舗について各3回、有料化前に事前の啓発キャンペーンをさせていただきました。

それから有料化の当日9月21日、当然、学生さんとか通勤されている方はマイバッグを持たれないということで、駅前でキャンペーンをさせていただきました。これなんです、これは駅前で、これは私どもの市長なんですね。それからこれは三重大学の朴先生、こちらがあとで話をさせていただくぎゅーとらの高橋さんです。

次に、これは店舗の様子なんですが、黄色いプラカードを持っているのが私どもの市長です。市長は本当に7つの事業者を全部夏の暑い時期に回りまして、公務の間とか、それからプライベートでも来ました。本当に最前線に立って、熱心にPRいたしました。

それと、これは有料化実施後の店の様子なんですが、ここに「レジ袋1枚5円」というカードがあるんですが、有料化が始まる前は、レジ袋を要らない方にそういったカードがございました。有料化実施後は、逆に要る方だけ入れていただいております。実際、ほぼ9割の方がマイバッグを持ってお買い物に来られますので、レジ袋を買われる方は本当に1割程度ですので、実際こういうふうに逆転したということがございます。

また、取組では、協定方式を取り入れさせていただきました。協定書を結んで、その中で取組について、細かく、事業者の方、それから市民団体の方等々が役割分担するという内容を網羅しております。7事業者、それから10の商店街、協力団体として商工会議所、防止センター、それと市民団体、この4者、それから当然行政もそうなんですが、協定を結ばせていただきました。

これは協定式の様子なんですが、やっぱり一番大きなインパクトになったのが、実は名古屋市が同年10月から開始予定だったんですが、それより前にぜひともやりたいと。やっぱりマスコミの力を使うことが一番効果があるんじゃないかということで、この9月11日、名古屋のすべてのテレビ局に来ていただきました。それから新聞もそうです。この日の昼間、それから夕方、すべてのテレビで流れました。

これは経過なんですが、お手元の資料、後ほど見ていただければと思うんですが、第1回が6月1日でございます。そして7月13日、ここで9月21日から実施するという発表をさせていただきました。この時にも新聞に流れました。で、この8月4日から土・日、先ほど申しましたように、夏の暑い時期に全部で3回、市民団体の方中心に延べ約200人ぐらいですかね、参加していただいて、キャンペーンをさせていただきました。で、晴れて9月21日に有料化が実施されました。

そしてひと月経って、これはマイバッグ持参率なんですが、平均して 88.8% ぐらいですが、全 7 事業者がもう既に 8 割を超えて、この 95.3% というのは生協さんで、もともと早くから有料化を実施しているところですので非常に高いんですが、平均して 9 割近いと。毎月毎月ホームページで発表もさせていただいておるんですが、11 月は 89.9%、12 月は 89.8%、概ね 9 割をキープしていると。

先ほど司会の方からご案内があったように、結構いろんな方が市のほうに視察にお見えになって、議員の方もお見えになって、伊勢に泊まれて、ちょうど前にスーパーさんがありまして、そこで買い物をしたら、もうほとんどの方がマイバッグを持っていると。レジ袋を買っていないというので、自分も抱えて帰ってきたと。ですので、本当に伊勢で買い物をしている光景を見ると、ほとんどの方がレジ袋を買っていないというような光景に出くわすわけです。

今回、全国先駆けの事例として「伊勢モデル」と呼んでいるんですが、こういった市民団体・事業者・行政が連携して、この中で商工会議所を抜き出してあるんですが、たまたまなんですが、ここの中にいろんなライオンズクラブがあるんですが、神都ライオンズクラブの 25 周年記念ということで、約 100 万ぐらいのお金を寄付していただけると。このレジ袋の削減に使ってくれということで、先ほど説明させていただいた駅前でのキャンペーンにマイバッグも配布させていただきました。それから、今年の成人式に、レジかごに入るマイバッグについても、約 1,500 人の成人の方々に配布をさせていただきました。

それで三位一体の取組ですね。まずレジ袋を使わないごみの出し方がバックグラウンドにあった。それから市民団体の啓発・支援、それからマスコミの力が大きかった。それから大手スーパーが足並みを揃えた。

当初、全部は非常に難しいなと。各事業者 1 店舗でもいいかなという考えでおったんですが、この検討会の中で逆に事業者の方から、もう本当に本格的に取り組むのであれば、やっぱり全部一緒にやったほうがいいのではないかと。逆にスーパーの方のほうから積極的な意見をいただきました。と言いますのも、例えば有料化するところとしないところがあったとすると、お客さんの流れの中で、近隣のスーパーで片方はやっている、片方はやっていないであれば、やっぱりお客さんは片方へシフトしてしまう、そういった懸念もございました。

そこで、もう本当に伊勢市全部で取り組むんだという形で、特にあとで説明していただくぎゅーとらさんは 9 店舗あるんですが、そこが一番多分困難だったと思うんですが、有

料化の取組で本当に全店揃っていただいたというのは非常に大きかったと思います。

この中で、実はこの4月から新しいスーパーさんも新規出店と同時に入っていただくんですが、当初お願いしたところ、こういうふうに本当に市民団体・事業者・行政が熱心に取り組んで、全部がやっているというのであれば、私らも出店時から有料化を始めるというようなお答えもいただいて、本当にスーパー全店に取り組んでいただくという状況です。

実はコンビニについてもお話をさせていただきました。しかしコンビニについては、やっぱりフランチャイズ店ということで、各店舗でそういった判断もできないということで、本社のほうも、お願いもさせていただいたんですが、やっぱりお客さんの層や営業の形態が違うということで、非常に難しいなということでありました。

ただ、この波及効果としまして、例えばジャスコさん、食料品売り場でない、他の売り場でもマイバッグを持って、レジ袋を断っているような状況も出ています。

それから、先ほどぎゅーとらさんに聞いたんですが、伊勢市の南に鳥羽市があるんですが、そこにもぎゅーとらさんの店舗がありまして、この有料化が始まって約5ポイントぐらいマイバッグの持参率が上がったと。それから近隣のスーパーさん、それから市内の小さな店舗でも、マイバッグを持ってお買い物というのが進んでいるということで、そういった意味ではスーパーだけで始まったこの取組、商店街も有料化はしないが協力はしていただいていると、どんどんそういった広がりを見せているということです。

これがどんどん進めば、今入っていないコンビニ、それからドラッグストア、ホームセンター、そういった中にも広がって、将来的には伊勢市全体として取り組めるのではないかと、そういったことが今後の展望であり課題かなというふうに考えております。

それでは、続きまして、ぎゅーとらの高橋さんのほうから、事業者のお立場からの、いろんな課題や成果、それから今の状況も含めて説明のほうをしていただきます。よろしくお願ひします。

(高橋)

皆様、こんにちは。

今日は、ぎゅーとらのレジ袋削減の取組を発表させていただきたいと思います。私は、本社ISO推進室に所属しております高橋美貴と申します。よろしくお願ひいたします。

皆様ご存知かどうか分からないんですが、ぎゅーとらは、北はこの津市、南は志摩市までの、食料品を中心とした23店舗のスーパーマーケットです。

ぎゅーとらは、マイバッグ持参運動というのを7年ほど前から展開しておりまして、2000

年の5月にスタートさせました。これは、レジ袋を断っていただいた方に、ぎゅーとら「ふれあいカード」、それに2点ポイントを進呈させていただくという取組でした。

その次の年、2001年の3月にISOの環境マネジメントシステム認証を取得しました。この頃からなんですが、本格的に地域のボランティア清掃、資源回収活動など積極的に環境に取り組み始めさせていただいた年でもあります。この年のマイバッグ持参率はだいたい12%でした。先ほどお話がありましたように、2001年の12月に伊勢市が各家庭にマイバッグを一つ配布しました。保冷式の本当にしっかりしたマイバッグで、私も6年前から使っているんですが、ちょっと汚れたので最近買い換えたんですが、本当にこのマイバッグはしっかりしておりとても使いやすいです。

マイバッグを配布していただきまして、2002年度、次の年には何と8%も持参率が上がりました。2003年度は先ほどお話がありましたように、伊勢市ではレジ袋ではごみが出せないようになりました。すると、またさらに2%上がりまして、平均22%という数字になりました。これは2007年の有料化の始まる前の持参率なんですが、だいたい22~25%という数字で、もうこれ以上上がらないかという試行錯誤をしていた年でもありました。そしてその年の9月にレジ袋有料化がスタートしました。

グラフで見させていただくと分かるんですが、先ほどのマイバッグを配布してから、次の年が20%、そしてごみ袋が導入されまして、本当に2006年、2007年にはこの状態、20%、22%からなかなか上がらない状態でした。

これは伊勢市内と伊勢市外の店舗との比較なんですが、伊勢市内は常に30%で、伊勢市外というのは津とか松阪、志摩市で、だいたい18%、約12%の差がありました。この伊勢市のマイバッグを持って買い物をする方が、伊勢市では有料化前から多かったわけです。

それでは、レジ袋有料化までの社内での動きを説明させていただきます。

4月に伊勢市よりレジ袋削減についてのお話をいただきました。この時に社内では本当にすごく慎重な意見がありまして、「お客様が今までタダでもらっていたレジ袋の有料化を納得していただけるのか」、また「有料化していないスーパーに流れて行ってしまうのではないか」、「伊勢市の近隣の市に買い物に行ってしまうのではないか」という意見がありました。

この時に他の県での、有料化を行った結果10%売り上げが落ちたという話も聞いておりましたので、私個人としてはして欲しかったんですが、役員はほとんどの方が反対でした。それでも、最終的に社長が、「地域社会を大切にするため、そして環境のため、そして将来

の子どもたちのために、レジ袋を有料化しましょう」ということで、取り組むことになりました。その後、先ほどお話のありましたレジ袋大幅削減の検討会が発足しまして、社内でもレジ袋有料化準備プロジェクトが立ち上がりました。

先ほど伊勢市よりお話しがあったマイバッグ持参シンポジウムにも私が事業者として参加させていただいたんですが、本当に小学生の子どもたちの歌を聞きまして、朴教授とかもそうなんですが、私も子どもがおりますので、やっぱりこの子たちが環境のことを考えているんだと思うと、涙が出てきた場面もありました。

7月に社内でレジ袋有料化を正式に発表いたしまして、先ほどの伊勢市の市民団体様による店頭キャンペーンが8月に始まりました。この時に社内でも京都のジャスコ東山二条店がレジ袋の有料化をしていましたので、店舗見学に行きました。そして9月には、お客様にマイバッグをプレゼントしようということでプレゼントしまして、11日にレジ袋大幅削減のための協定式が行われ、21日に伊勢市内のぎゅーとら9店舗でレジ袋有料化を行いました。

私たちがやりやすかったのも、伊勢市さんと力を合わせて取り組もうということで、「伊勢市と一緒にやっています」ということでした。やっぱり私たち事業者にとっては、有料化すると「また儲けるんや」と言われることもありますので。

これは伊勢市さんが作成してくれたポスターなんですけど、これは市長さんですが、「マイバッグを持って買い物に行こう！伊勢を環境先進都市へ」という、このポスターをいろんなところに張っていただきました。こちらも伊勢市さんが作成してくれたんですが、英語、韓国語、中国語、ポルトガル語のポスター、伊勢市にはやはり海外の方もたくさんお住まいになっておられますので、ちょっと身振り手振りでは「レジ袋有料化です」ということは伝えられませんので、こういうのも作成していただきました。

これが市民団体の方がやってくれたキャンペーンで、店頭でお客様に呼びかけていただきまして、本当に私たち事業者にとっては大きな支えとなりました。

先ほどのマイバッグプレゼントの話なんですけど、このCGCのエコバッグプレゼントというのとか、これはぎゅーとらの「トライくん」というキャラクターの尻尾なんですけど、このマイバッグのプレゼントとかを行いました。

そして、有料のレジ袋、これが従来のレジ袋、皆さんご存知だと思うんですが、これ、薄っぺらなんです。やっぱり原油等が高騰してまして薄っぺらなんですけど、こういうしっかりした袋が有料化になりますというのをお試ししていただきましょうということで、

有料レジ袋のお試しキャンペーンも3日間行いました。そして、有料化案内のリーフレットも一緒に配布させていただきました。

このリーフレットなのですが、「ぎゅーとらは、マイバッグ推進運動を推進しています」というのをまた知っていただいて、これですぐごみ箱に捨てられるとダメなので、大人の人はどうか分からないんですが、子どもたちにも見てもらおうということで、裏面は塗り絵にしました。

ぎゅーとららしく、いろんなことを行ったんですが、子どもたちからのメッセージをBGMにということで、「有料化しています」というのを店内で流すのに、大人が「有料化になります。ご協力をお願いします」ではなくて、従業員の子どもの、たとえば「地球を大切にしましょう」というようなメッセージを録音して、今でもお店では流れていると思うんですが、例えば「お父さんはネクタイを外して会社へ行っています。それはエアコンの設定温度を下げないためです」とか、そういう感じで「地球を大切にするために、レジ袋有料化に取り組みましょう」みたいな感じのBGMを今でも流しています。

先ほどのレジ袋の見本なのですが、店内にはこの有料のレジ袋の案内を張りました。こちらのレジ袋は厚手で丈夫になっていますので、もし一度買われたら、何回も使用してくださいというような案内です。こちらは、マイバッグ持参運動にご協力をお願いします。レジ袋1枚買うと5円かかりますという案内です。

先ほど市役所の方が言われたように、「有料化になります」というのをアピールするんじゃなくて、やはり「マイバッグ持参運動を推進しています。皆さん、マイバッグを持って買い物をしましょう」というようなことをアピールさせていただきました。

こちらは、すべての袋が有料ではなく、無料で配布させていただく袋も実はあるんですね。例えばこの大きいお寿司を入れる袋とか、お米などはやはりこんな袋に入れられませんので無料で配っています。あと、花とかは無料で配っていますので、お客様に分かりやすいように一覧表にしています。

先ほど佐無田先生のお話にもありましたが、社内でも意識改革と言うか、環境の意識改革を行おうということで、従業員もこの有料化をきっかけに、環境にさらにいいことはできないか、環境にいいことをしようということになりまして、もともとやっていた人はやっていたんですが、休憩の時にお店で買ってレジ袋をもらっている従業員も実はいました。それでもやはりお客様はレジ袋有料化になるんですから、従業員も、実はお弁当とかではもらえるんですが、絶対もらわない、買い物はマイバッグを持参しようということで、



レジ袋削減は従業員から始めましょうということに取り組みました。

あともう一つ始めたことは、お昼の食事にはマイ箸を持参して、割り箸は使わない、もらわないようにしました。これは私のマイ箸なのですが、必ず割り箸をもらわないで、自分の箸を持参しようということで、従業員はマイ箸でお昼を食べています。

あと、この従業員専用のマイ箸置き場、これはお店なのですが、こちらは本社のお弁当置き場には、マイ箸を忘れてきた時に貸出用の箸を5セット用意してあります。これも全部ペットボトルで作ったんですが、これも従業員の提案でした。こういうケースにしたらどうだということで。このマイ箸を始めた頃は結構忘れる人もいたんですが、今は定着したので、全然これは使用しておりません。

あともう一つは、私たちはスーパーですので、試食とか開発商品などを食べる時があるんですが、そんな時は実は割り箸を使っていました。その割り箸もすべて止めまして、マイ箸をいつも携帯して、試食も割り箸を使わないようにしました。あと会議、部会、惣菜部会、鮮魚部会とかの会議にも、従業員は全員持参するようにしました。資源の節約、使い捨てるの見直しは従業員から始めましょうということで行っています。

これがレジ袋有料化後のマイバッグ持参率なのですが、先ほどありました9月21日にスタートしまして、10月の時点でもうすでに88%、そして今は91%という数字を保っております。10人のうち1人だけがマイバッグを持って来られない。あとの9人はマイバッグを持って来ている。1人はレジ袋をもらおうという感じです。

伊勢市外は、先ほど18%と言わせていただいたんですが、今は5%上がりまして、鳥羽市に鳥羽西店、鳥羽東店というお店があるんですが、やはり伊勢市の横ということで、これだけ持参率が上がりました。本当にこのマイバッグを持って買い物をする姿は伊勢市内は当たり前前の光景となっております。

これは店別の持参率なのですが、こちらが実施前、30%です。で、実施後、9月30日で87.9%、年明け1月の持参率も91.3%でした。コア店というお店があるんですが、このお店は実は40%近い持参率がすでに有料化前からあったんですが、やはり一番高いお店でありまして、現在93%の持参率です。

次に有料化後のレジ袋の削減実績なのですが、だいたい5ヶ月で今まで使っていたレジ袋を200万枚、削減しました。これはレジ袋を1枚当たり原油で約20ミリリットル使っているんですが、20ミリリットル×200万枚で4万リットルの原油を削減したことになります。だいたい2リットルペットボトルで2万本、ドラム缶ですと200本の削減をしたこと

になります。

二酸化炭素の排出量も近頃は抑制をよく言われているんですが、だいたいレジ袋を1枚燃やすと、重さの6～7倍の二酸化炭素が排出されます。ぎゅーとらの先ほどのレジ袋は、だいたい1枚6.5グラムですので、1枚当たり45.5グラム二酸化炭素が排出される計算になるんですが、だいたい5ヶ月で91トンの二酸化炭素を削減したことになります。

先ほどもあったんですが、ぎゅーとらとしてレジ袋有料化が成功した三つのポイントというのは、まずはお客様の環境への意識が高いということです。有料化前から30%の持参率があったというのも成功のポイントだと思います。あと、意識という面で、無料なら何枚でももらおうとか、どれだけもらってもいい、マイバッグを忘れても無料のレジ袋をもらえばいいという意識が芽生えるんですが、有料だったら、必要なければ買わないという意識が芽生えました。また、たまに買った袋でも、ごみには出せないんですが、よくごみ箱にセットするんですが、それも買った袋なら何回も使おうという意識が生まれます。

2番目、先ほど市の大野さんも言われていました、伊勢市・市民団体・事業者が一緒になって取り組んだということが成功のポイントだと思います。伊勢市内全スーパーが足並みを揃えて実施したということです。

3番目なんですが、ぎゅーとらでは、レジのチェッカーは、有料化になっても親切に必ず声をかけるということを徹底しました。「袋をお持ちですか?」とか、袋を持っていない人には「有料になっております、申し訳ございません」という声かけを必ずするということを徹底しました。これはチェッカートレーナーがいるんですが、この方に夜間まで現場で教育していただきました。また、お客様からのQ&Aも作成して、チェッカーに徹底させました。あと、有料化後のロールプレイングの実施というのも何回も行いました。有料化後、こんなふうなお客さんが来るんじゃないか、「何でなん!」と怒ってくる人がいるんじゃないかという場面を想定して何回も行いました。

あと、やはりその有料化というのを大人だけに伝えていくのではなくて、子どもたちにも伝えていこうという取組をしています。ぎゅーとらでは「CS活動」と言いつつ、大内山牧場ツアーとか食の成り立ちを伝える保育園での餅つきなどを行っているんですが、今回は食べ物の大切さを伝えるのではなくて、環境のことを子どもたちに伝えていこうということで、取り組みました。

子どもたちに教えるということは、将来的な意味で大人に教えるよりも大切なことだと思いますので、このように分かりやすいDVDとかを作成しました。これはトライくんが

ごみを放っているんですが、「こんなことをしてはいけない、将来こんなに地球が汚れてしまうんだよ」ということを、分かりやすいDVDを作成しました。ぎゅーとらが環境のこととか食べ物大切さを伝えていければいいと思っています。

5ヶ月経った今、本当に大きなクレームはありません。有料化当日は、私たち本社関係者もお店のほうに張り付いたんですが、怒ってきたお客様というのは本当にお一人ぐらいで、「何で有料なんや！他のスーパーへ行くぞ！」と怒ってきたんですが、多分その方は他のスーパーへ行っても有料化されているので、そこでも怒ったかも知れないというぐらいで、あとは本当に皆さん、市民の方、本当にお客様は本当にいい方で、大きなクレームはありませんでした。

あと、ぎゅーとらの近くには大きな会社があったりして、お昼をよく買いに来ていただくんですが、すごく感動したんですが、ちょっと男性の方には失礼なんですが、男性の方にはマイバッグと言うとちょっと抵抗があるんですが、その方も本当に、この配ったバッグを持って、お弁当とかを買いに来てくれる光景を今でも見ます。

こちらは、袋詰めサービスの案内なんですが、スーパーとしまして、90%の方がマイバッグを持って来て、全員の方にこういう商品を袋に入れるサービスを行っていると、結構時間がかかるのと、あとやっぱりお客様でも「入れ方が悪い」とか「斜め向いとるやんか」「水漏れとるやんか」というお客様がみえまして、こういうレジ袋に沿うマイバッグとかマイバスケットには袋詰めサービスは行います。それ以外でのマイバッグにつきましてはご自身でとなっているんですが、やはりいろんな方がみえまして、体の不自由な方とかご高齢の方とかもみえますので、マイバッグを持参して、環境にご協力していただいていることで、袋詰めサービスを行っております。

こちらは、マイバッグ持参の経過報告なんですが、このようなセミナーで発表していますと、一体お客様にとってどれだけ持参率があるのか分からないとよく言われましたので、お店のほうには大きく「91%もあります。ご協力ありがとうございます」というふうに掲示してあります。

レジ袋有料化というのは、環境保全活動の一つの手段として行いました。ぎゅーとらはこれからもお客様、そして伊勢市、行政と一緒に環境のことを考えて、一緒に取り組んで行きたいと思っています。

今日はご清聴ありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。最初にお話いただきました伊勢市の大野課長補佐様、それからぎゅーとらの高橋様、ありがとうございました。

10人の方がお買い物に来られますと、お一人しかレジ袋に入れてお店を出て行かれないというのは、なかなかちょっと想像できない光景かと思いますが、現実にそれが今、伊勢市さんでは起こっているということで、有料化の検討会も、当初は、本当にできるのかなという不安もあったかと思うんですが、事業者の方の思いをはじめ、住民の方々、団体の方々、それから事務局をお務めいただいた伊勢市ご当局の思いもございまして、有料化の事例、大変ご参考にさせていただけるのではないかと思います。ありがとうございます。

それでは、只今から質疑応答の時間を設けさせていただきます。少しセッティングをいたしますので、少々お待ちくださいませ。

それでは、どなた様でも結構でございます。30分ほどを目処に質疑応答の時間を取らせていただきますので、ご発言のある方は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

(質問者1)

伊勢市の場合、マイバッグを全戸配布したというふうにご説明があったんですが、このマイバッグを全戸配布することが成功の必須条件と言いますか、どれぐらいのウェイトで全戸配布することが大事なことだというふうにお考えか、お尋ねします。

(大野)

ウェイト付けというとなかなか難しいかと思いますが、もともと全戸配布した経緯につきましても、当然ごみの減量化も含めて、そういった意識を高めるという意味も含め始めさせてもらい、これは平成13年のことですので、今からもう6年ぐらい前ですので、その時も配布後にキャンペーンをやったんですが、やっぱり意識の高い方はずっと使ってみえるんですが、なかなか一定の持参率以上にアップしないということで、今回さらにもっと取り組みはないかということで、今回こういった検討会を設けて進めさせてもらったということなんです。

6年前に配った時に、皆さんに使っていただいてレジ袋を本当に断っていただけるかと思ったんですが、なかなかやっぱりそれだけでは限界があったということで、今回さらに推進するために有料化という形になったわけです。

(司会)

よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(佐無田)

伊勢の取組は非常に興味深かったんですが、ちょっと教えていただきたいのが、隣の市町村のスーパーに流れるのではないかという懸念が当初あったということだったんですが、これは実績として売り上げという点では何か影響があったのかどうか。例えば隣の市のほうに流れてしまっているかいないかという点は何か数値で分かりますでしょうか。

(大野)

ぎゅーとらさんのほうはちょっと減っているということを聞いています。やはり伊勢市だけですと、やはり近隣がありますので、若干近隣市町ボーダーラインのところでのお客さんの動きはあったのかなと。1店舗だけ、あるお店につきましては、過去3年間のレジ袋の実績も聞かせていただいて、毎年使用量は減っているということで、随分浸透しているんだなというふうに言わせてもらったら、お客さんも減っていますよと言われたということもありました。

今回につきましても、若干そういったことはあるんですが、ただ、周りというのはそんなに影響はどうかのかなと。というのは、合併しまして、かなり大きなエリアになりました、近隣にそんなにたくさん店舗があるわけではございませんので、逆に言えば、近隣のスーパーでもそういったマイバッグを持って買い物をしている人が増えていきますので、市内・近隣も含めて、そう極端に大きくお客さんが減ったというのは聞いておりません。

ただ、やる前に、例えばぎゅーとらさんにも言われたんですが、もし数%減ったら何百万という赤字になるんだというふうに聞きまして、やっぱりそのためにはもっと市民の方にも理解していただくように、キャンペーンとか積極的にやらせていただいて、そうしたことがないように行政、それから事業者、市民団体を含めて熱心に取り組んだということです。結果、今のところ大きく極端に減ったというような報告は聞いておりません。

(高橋)

実は、本当はちょっとは減っているんでございます。すみません、皆さん、買い物はぎゅーとらでお願いしたいんですが、でも、近隣の横のスーパーに買い物に行かれてしまっているのなら、うちのスーパーがレジ袋だけじゃなくて、違う品質とか接客などの面で負けているんじゃないかということを役員の方はおっしゃっておいりましたので、ちょっとは減っておりますも、それはレジ袋を有料化したからとは思っておりませんので、今後も買い物はぎゅーとらでよろしく願いいたします。

(大野)

それともう1点、あるスーパーさんでは実際にお客さんが減ってないと。ただ、1人あ

たりの購買の金額が下がったと。ある意味では有料化によって減量効果が働いた部分もあるのかなど。つまり無駄なものを買わないと。先ほどぎゅーとらさんがおっしゃったように、今までタダでもらっていたのでどれだけでももらおうと。で、有料化になったので、これもあるスーパーさんで聞かせてもらったんですが、消費者の方が本当にそれが要るか要らないか考えて、要るものを買っていただく。これは杉並区さんのアンケートの結果でも、レジ袋がそのお店から家に帰るまでの運搬手段であったと、7割の方が言ってみると。ということは、代わるものがあればレジ袋は要らないんじゃないかと。

そういう結果も出ておりますので、今回のレジ袋というのは本当に微々たるものですが、そこを通じていろいろな行動が変わればということで、例えば家に帰って電気も消していただいたりとか、無駄なものを買わないとか、あるいは簡易包装のものを買っていただくとか、そういうふうな形が変われば、レジ袋だけじゃない、他の部分にも波及するんじゃないかというふうに思っております。

(司会)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(質問者2)

スーパーのレジ袋有料化の検討会メンバーに市民団体さんが五つほど入っていますが、有料化するということに対してやはり市民から、もともと13年にマイバッグを全戸配布されたぐらいですから、伊勢市さんの中においてはこういうごみ問題市民会議であったり婦人会とかPTA連合会とかが積極的にごみあるいはレジ袋について、この「ええやんか！マイバッグ検討会」というのが発足する前から、ごみについて市民団体のほうはかなり積極的に動いていらしたんですか。

(大野)

13年に配って、そのあと商店街の方とともにキャンペーンもさせていただいて、その後、実は大きな市民団体の動きというのはなかったわけでございます。ずっと横這い状態で、今回何とかもっと積極的に取り組めないかということで展開した部分もでございます。それで挺入れも含め、何とかより一層取り組むという形でこの検討会を設けさせていただき、事業者の方にも加わっていただいて、考えたというような状況でございます。

(質問者3)

前後するんですが、15年の4月に可燃ごみの指定ごみ袋制度を導入されていますね。この際、具体的にごみ袋はいくらで購入するとか、そういうような形で、これは有料制なん

ですか。

(大野)

これは有料制ではないんです。先ほど申しましたけれども、当初、事務局としましては、有料化と指定袋の両方立てて行くような話をしておったんですが、実は議会のほうから「まだ時期が早いんじゃないか」と。で、指定袋の制度でそういったごみが減量化できれば有料化する必要はないんじゃないかという形で、しばらく様子を見ながら検討するような状態で止まっております。1年間で可燃ごみは約1割減りました。その後はずっと横這い状態でございます。

実際、先ほど事業系のごみの話も出ましたけれども、実は昨年、事業系のごみがちょっと増えたんです。原因はちょっと分かっておりません。ただ、他のところの料金が上がったとかいうことも聞いておりますので、何とか今の取組では当然家庭系のごみもそうなんですが、事業系のごみもやっぱり何とか減量する方法を考えていかないといけないのかなど。

それと、伊勢市では皆さんご存知だと思うんですが、可燃ごみの中に生ごみが多分6割ぐらい占めていると思うんです。それについても当然水切りの徹底などもお願いしているんですが、なかなか減ってきません。

私どもの市長は、昨年の暮れの議会で、実は生ごみを積極的に、焼却せずに何とか資源化できないかという形で発表させていただいて、新しいエネルギービジョンの関係で、来年その生ごみの資源化を含めた有効利用について、詳細な調査をさせていただいて、何とか生ごみを焼却せずに取り組む方法を来年から検討していくということを考えております。

(質問者3)

何回もごめんなさい。今現状は無料なんですね。

(大野)

ごめんなさい。指定袋は無料ではなくて、ごみ袋代金実費の金額を払って買ってもらっています。

(質問者3)

因みにいくらですか。

(大野)

当初は55円で、その後、原油価格が上がっていますので、今、70円です。

(質問者3)

何リットルですか。

(大野)

45 リットル 10 枚入りですね。大中小とございまして、大が今言ったようにはじめ 55 円で、それが 15 年ですね。それから 2 年後上がりまして 70 円。実は今年入札をして、やはり上がりましたので、4 月からは 83 円になる予定です。

(質問者 3)

1 枚 8 円 30 銭ということですね。

(司会)

よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(質問者 4)

2 点質問があるんですが、まず伊勢市さんのほうに、ドラッグストアのほうにこのレジ袋の導入をされなかった理由を教えてくださいたいのと、もう一つが、レジ袋の有料化でレジ袋も減るんですが、その前に食品トレイというのは結構食品を買うのにすごいごみにもなると思うんですが、そのへんの削減のアイデアとか、そういう導入の何かお考えとかはないんでしょうか。そのトレイについては、伊勢市さんとぎゅーとらさんのほうにもお聞きしたい。よろしくをお願いします。

(大野)

ドラッグストアについては、実は早く実現したいということもありまして、まずはスーパーさんから始めさせていただいて、その次のステップとして他のところにも広げていきたいなど。やっぱり最初から全部を対象にしてしまうと、スタートが遅れるということで、何とか早くしたいということで、対象も絞らせていただきました。やはりこういった結果を見ていただくことによって検討していただいて、いろんな形で今後参加することがスムーズに行くんじゃないかと。

それからトレイにつきましては、あとでまたぎゅーとらさんにも言っていただきますが、容器包装ですので、伊勢市では平成 12 年から分別して回収のほうをさせていただいて資源化しております。

私の知っている範囲では、トレイにつきましては、各店舗で回収をしていると思うんです。トレイはもう一度トレイに戻るわけなんですね。ですから、商品を納入した後の空き車でそれを集めて行って、工場のほうでもう一度再生トレイとしていると。多分トレイを見ていただくと、後ろに「リサイクルトレイ」と書いてあるものがあると思うんですが、



多分こちらへんは広島会社だと思うんですが、帰りの車でそれを持って行って、もう一度利用するという形になっております。

(高橋)

このようなセミナーで、本当に先ほど言われたトレイのことはいつでも言われます。ただ、衛生上のこともありまして、昔みたいにボウルを持って来て、これに入れてくださいというわけには、やはりこちらも衛生上、お客様に危ないということもありますので、トレイはなくせないということと、あと、袋売りしてくださいと言われれば、一応袋売りさせていただきますんですよ。ですので、お店のほうにもし行かれたら、「トレイじゃなくて袋売りがいいんですけど」と言っていたら、入れさせてもらいます。ただ、本当にお客様が持って来ていただいた容器とかに入れると、やはり食中毒とかの関係とかいろいろありますので、やはり包装した状態で売らせていただきたいというのが、申し訳ないですが、スーパーとしての姿勢です。

あと、トレイはやはりリサイクルしていただくように、資源回収ボックスなども設置させていただいておりますので、よろしく願いいたします。

(質問者4)

ちょっと一言だけ、私は愛知県の者なので、三重県のほうでトレイがどういうふうに回収されているのかちょっと分からないんですが、あるスーパーでは、そのスーパーで扱っているトレイが、そのスーパーで回収されないというのがたまにありまして、例えば色付きトレイは回収していませんとか、商品に色付きトレイを使っているのに、色付きトレイは回収していなかったり、ちょっと困ったことがあるので、そういうものをなくしたり、やっぱりリサイクルと言っても資源を使っているわけですし、広島県に行くにもエネルギーが要りますし、やはりそういうのもちょっと、どうやってやったらいいのか分からないんですが、減らしていく方向も考えていく必要があるんじゃないかなと思いました。

(高橋)

本当に先ほど言われていましたように、トレイのリサイクル、スーパーの資源回収ボックスには確かに先ほど言われたように、発泡トレイとかリサイクルマークが付いているのしか回収できなくて、あとは自治体の方へというふうになっているんです。ぎゅーとらでもちょっと提案させてもらったんですが、それ以外のトレイは伊勢市さんの袋に入れて、店頭で置くことも考えたんですが、やっぱり場所の関係などもありまして、できないのが今の現実なんですけど、やはりこちらが出しているトレイですので、今のご意見も、また考

えさせていただきたいと思います。

(司会)

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(大野)

特にトレイについてはもう一度トレイに返りますので、本当は本来のもともとのものに返るのが一番いいと思うんですよね。それに足りない部分を補うという形で、トレイについては本当に店頭回収をすればもう一度また、色付きじゃない部分についてはもう一度トレイに変わりますので、店頭回収に流れるのが一番その元に戻るということで、一番理想的なリサイクルがされる仕組みかなと思います。

それ以外については、今言った容器包装プラスチックで回収をして資源化をしているというような状況です。

(司会)

よろしいでしょうか。はい、どうぞ。

(質問者5)

ちょっとお聞きしたいんですが、今、トレイのお話ありがとうございましたよね。伊勢市さん、鳥羽市さんとか、漁業の盛んなところでは、やはり独自にトレイだけ別回収、その中に一般廃棄物から出てくる発泡スチロールも一緒に回収していくという、容り法の分別の中に入れるんじゃなくて、トレイが今おっしゃったように、一番コストのかからない再生しやすいものというふうに考えていくなれば、トレイと容り法の分別とは一緒にするべきではないのかな、別にしたほうがコスト的にも、また加工するエネルギーの消費なども考えていくと、有効な手段としていくなれば、トレイは別回収、容り法から外すべき、そういうことがあってもいいのではないかなと思いますが、どうなんでしょうか。

(大野)

おっしゃるように、例えばプラスチックも多分7区分ぐらいありますように、全部分けてきちんとすれば、もう一度資源に変わる率が非常に高まると思うんです。ただ、一番問題なのは、分ければ分けるほどやはりその収集コストが上がるので、それが一番問題でございます。

ですから、今プラスチックは伊勢市の場合ですと、月に2回集めさせてもらっているんですが、トレイだけまた別に集めるようになると、またその分もコストがかかるということで、今は容り法の分別枠組みで集めて、それ以外のトレイについては、ほとんどの店で

は店頭回収しておりますので、そちらのほうでトレイについては役割分担をというふうに、現状としてはそう考えております。

(司会)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(質問者6)

何回もすみません。事業系のごみについて、先ほど増えたので分別云々というお話をされていましたが、今現状、事業系のごみについて、いわゆる産廃以外の一般廃棄物についてですが、具体的にどういうふうな形で回収をされたりとか、あるいは金額設定をされたりしているんですか。伊勢市さんのほうとしては。

事業系ごみの一般廃棄物についてですが、いわゆる大きい企業さんは独自で業者さんを通じて回収されたりする部分があると思うんですが、市として中小企業が出す事業系のごみの回収はされていますか。

(大野)

原則論から言わせていただくと、あくまでも事業系のごみは事業者自らが処理していただくということで、そういった収集運搬業者に依頼するか、市の清掃工場がございまして、直接そちらに持ち込んでいただくようお願いしております。

さきほど申しました指定袋の採用時にも、やはり以前からそういった事業系一般廃棄物も結構出されるということで、それと区別区分する意味で、半透明の袋を採用させていただいて、明らかに事業系と分かるものについては、当然シールを貼って指導して適正な処理をしていただくと。原則そういうような形で、分かる範囲で事業系については事業者自らしていただくというような形で指導させていただいております。

(質問者6)

そういうことでしたら、市の清掃工場のほうへ独自に持ち込む以外、持ち込むことは可能なんですね。

(大野)

そうです。

(質問者6)

それ以外、個別の業者さんと契約をして回収してもらっているそのごみ自体は、業者さんの責任でいわゆる市の清掃工場に入るんじゃないしに、どこか違うところに持って行かれるんですか。

(大野)

いえ、当然、一般廃棄物ですので、市の清掃工場で処理をされております。

(質問者6)

それはごみのいわゆる収集量云々というのは、伊勢市さんのほうとしては一切関知されなくて、業者と排出企業との契約の中で成り立っているのです、金額等は一切分からないという話ですね。

(大野)

そうです。細かい内容については具体的には把握しておりません。

(質問者6)

例えば分別云々というような部分についてのお話も先ほど「ちょっと増えてきたので」というお話をされていましたが、そのへんの部分は家庭のごみと同様に、いわゆる業者さんが持ち込まれるごみについても、分別等々についての指導はどこらへんまで今されているんですか。

(大野)

そこらへんも、事業系のごみについても、非常にその分別が徹底されていないということで、実は清掃工場の窓口でそういった点検もさせていただいたり、あるいは収集業者にそういった分別についてはきちっと資源化できるものは資源化するような形でお願いはさせていただいております。

ただ、その徹底と言いますと、今申しました、直接私どもが指導するわけには行きませんので、あくまでもそういった業者の方、それから収集運搬業者の方にそういったチラシ等の形をお願いをさせていただくにとどまっております。

(司会)

よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(質問者7)

今の質問に関連してなんですが、事業系のごみについて今ご質問された方の話から、同じような観点なんですが、今の話で、市町村がそういう業者に指導するのか、県としてはどういう立場にあるんですかね。私どもは旧青山町で、今は伊賀市なんですが、社内の中では分別してきちんと仕分けしているんです。ところが、収集して持っていく、その契約している収集業者さんは、結局、我々が分別しても、車と一緒にくたにして持っていくということなんですね。

減らす努力はしているんですが、社員のほうにはそういう意識の徹底も、「どうせ一緒にして持って行くんじゃないか」というような感じで、今行き詰っているんですが、これは行政の中で市町村が指導すべきものなのか、県とか国とかがすべきものなのか、業者の認定とか許可とかという立場にあるところはどこなのか、ちょっと分かりませんが、県としてどういうふうにご覧されているのか、お聞きしたいんですが。

(県)

県として法令上何かそういうことができる根拠があるかどうか、そういうことはございません。基本的に「ごみ」と言われる一般廃棄物につきましては、これは市町村が第一義的な処理主体になりますので、その中でも今日の一つのテーマであります事業系一般廃棄物というのは、まず排出事業者さんに処理責任があって、そして市町村のルールの中でやっていただくというのが大原則ですので、その部分を踏み越えるような何らかの指導とかを県がするという事はないですね。

(質問者7)

その処理事業者の認定というのは市町村がするわけですか。

(県)

そうですね。そういう形になります。

佐無田先生、そのへんについて何か、金沢市の事例も含めてご紹介いただけましたら。

(佐無田)

金沢市と似たような状況がやはり三重県にもあるのだろうなというのは、今の話を聞いてよく分かったんですが、つまり、市町村には一般廃棄物の処理義務はあるんだけど、事業者から出る廃棄物については、基本的に事業者責任ですよという体系でもって、国の制度から法令から、そういう体制になっていますので、市町村や県が事業者に対して「こうこう、こうしなさい」ということを言える立場にないというふうな議論がどこでもどうしても出てくるわけなんです。

しかし、これはやっている自治体はあるんですね。例えば名古屋市では、家庭系のごみを有料化したのと同時に、事業系のごみについても有料の体系を整備して、どんな分別でもってどこが収集回収してどうリサイクルに回るのかという枠組みを作っています。どういうふうに行ったのかはよく調べていませんが、名古屋市それから札幌市でも事業系のごみについてかなり体系化しています。一部の自治体では、やはり家庭系をどんなに分別しても、事業系が減っていかねばどうしようもないじゃないかということで、市町村の

法令範囲内でいろいろ工夫してできることを取り組み始めている状況だと思います。これは、チラホラと自治体での動きが出ていますので、今後もう少し広まっていくのではないかなと思います。

結局、指令では難しい場合は、多分一般廃棄物収集組合さんみたいなところとの話し合いが重要になってくるのでしょうか。先ほど伊勢市さんのレジ袋有料化も協定という形でやられていますよね。市のほうとしてこれこれという指令はできないけれども、収集業者さんなどと話し合っ、全体的に分別回収する曜日を決めましょうというようなことは、協定みたいな形で話し合いできるわけです。それから、収集に関する料金というのは契約なので、それぞれバラバラですが、その収集したものを市の施設で受け入れるときの料金というのは市で決められるので、料金設定で誘導することもありえるでしょう。先ほどちよっと三重県のお話を聞いたんですが、市町村が決めることのできる処理料金が、全体として上がっていると。市が受け入れる事業系一般廃棄物の料金がだんだん上がることによって、産廃処理料金と一般廃棄物処理料金の差が縮まれば縮まるほど、やはり産廃としてきちんと処理したほうが事業者としてはいいという方向に流れやすくなりますし、現実に三重県でも事業系一般廃棄物の量が減って来ているという話を聞いたのですけれども、そういう動きもあるようです。

ですから、現在の法令の中で、協定の取り組み、あるいは組合との話し合い、あるいは埋立とか焼却の処理料金の設定の仕方、そういうものを工夫することによって、市のほうとして事業系の一般廃棄物に取り組むということは、ある程度可能であるし、今後広まってくるんじゃないかというのが私の考えであります。

(司会)

よろしいでしょうか。そうしましたら、あと5分ぐらいですが、時間の許す限りご質問をいただきたいと思います。どうぞ。

(質問者8)

何回もすみません。2点新たにお伺いしたいんですが、先ほど先生がおっしゃられた部分について、ちょっと疑問を感じております。

処理料金を上げることにより、事業系のごみはいわゆる排出事業者の処理責任となる産業廃棄物のほうに移行して、一般廃棄物としては減るというふうにおっしゃられています。例えば地方自治体によっては、取り口が違っただけで最終処分は同じ手法をされているところもある。先ほどおっしゃられた青山町の方も、我々は名張市なんですが、一般廃棄

物処理組合さんが一廃を引き取りますけれども、それ以外の産廃は個々の業者さんが引き取りますが、窓口が違うだけで、最終的な処分は全部最終処分場に行って埋め立てられます。産廃についても。結局、責任の擦り付け合い的なことが発生するだけの話で、何も変わっていないと思います。そのへんの根本的なことをどうお考えになられているのかというのの一つ。

伊勢市さんにもう一つ聞きたいのが、容器包装プラスチックについて、事業系のごみをいわゆる契約業者あるいは市のほうで回収される月2回の容器包装プラスチックの、いわゆる資源利用ができる部分について、当然事業系のごみからもこういったごみは出る可能性が高いと思うんですが、それについては具体的に同じように処理をされているんですか。それとも、それは排出業者の責任だということで、家庭用のごみとは別に、受託のほうにはさわれないので、そんな分別はしてもらっても回収できませんと、さっき青山町の方が言われましたけれども、現実的に分別を一生懸命企業側がやっても、最終的にまとめて、潰されて最終処分場に送られるケースというのが多いので、そのへんのことは伊勢市さんとしてはどんな形でやられているのか、お聞かせ願いたいと思います。

(司会)

それでは最初に佐無田先生のほうからお願いします。

(佐無田)

おっしゃられるとおりであります。まず地方自治体によっていろいろ違います。その産業廃棄物でも、少し事業者に配慮して、処分場で受け入れなければならないというふうな形で受け入れている自治体もあれば、そういったものは受け入れはもう不可能であるという形で、他の産業廃棄物処分場に持って行ってくださいよというふうに拒否している自治体もありますし、それは自治体ごとにいろいろあるんですが、私が報告のほうで申し上げたかった点として、その制度のほうをちょっと改革していく必要というのが一方ではあると思うんです。またもう一方では、ごみ収集の体制ですね。ごみ収集のシステム、ここを改革していくということと一緒にやっついていかないと改善していかないと部分があろうかと思って報告いたしました。

しかし、全体からちょっと申しますと、制度のほうをいじる必要というのはやはりあると思います。処理料金が高くなっていくというのは、つまり産業廃棄物処理料金よりも、今は一般廃棄物処理料金のほうが格段に安いので、一般廃棄物で処理したいという流れがありますので、産業廃棄物処理料金に近づいて行けば行くほど、つまり産業廃棄物で処理

しないといけないんじゃないかということになります。それだけ処理料金は一般廃棄物のほうは高くなってはいないんですが、微々たる処理料金の変更では、それほど大きな変化はないかも知れませんが、産業廃棄物として処理するという、全部産業廃棄物として処理するというの枠組みの中では、資源化に向う資源は資源として分けたほうが、少しはコスト削減になるという段階になる時もあるということですね。そうならない価格の場合も多々あると思うんですが。

現実に金沢なんかで起こっている話として、制度で変わったというのは、事業所系一般廃棄物の中でも、ペットボトルと容器包装プラスチックについては、市の処分場に搬入はダメですよというふうに変えました。これは制度的な改革なわけですけども、これはやっぱり影響があったんですね。特に最初にやったペットボトルに関しては、すでにペットボトルは有価で流通するようになっていまして、きちんと洗えばという話なんですけど、きちんと洗って収集業者に分けて渡すと、リサイクルルートに乗ると。全部じゃないですよ。全部じゃなくて、中には産業廃棄物として混ぜて持って行って、全部燃やしてしまってくださいというふうな業者もあるかも知れませんが、事業者によっては分けて回収してください、そしてペットボトルについては有価で処理してくださいというのがルートに乗るようにはなりました。

それから、今度の4月からは、容器包装プラスチックに関しても、事業系一般廃棄物で出る容器包装プラスチック、これを今までは容リ法のリサイクルルートには乗らなかったもので、市の処分場で受け入れざるを得なかったのを、もう受け入れしませんよというふうになりました。この制度的改革はこれから効果が出てくるだろうと思います。但し、その効果を出すためには、その一般廃棄物のプラスチックがリサイクルルートに乗るだろうというルートを市のほうで想定しないと、こういう制度的変更はできないということもあって、その処理事業者と相談して、ちゃんと容器包装プラスチックでもリサイクルルートに乗る、そのルートを見つけていくというのが、今度の4月までの課題になってきて、それなしにはなかなか変わらないということでもあります。

但し、我々がそのことについて問題提起しているのは、そういうふうには制度で変えても、結局はその収集の段階で詰まってしまう構造が現実にはあって、制度だけ変えるのではなくて、やっぱりその収集のやり方、システムというところについて提案していく、あるいは実験的に分別して共同回収するような実験とかをやって、収集システムの改革ということをやらない限りは、そう簡単にごちゃ混ぜに持って行くという方向性は、簡単に制度だ



けでは変わらないだろうなというふうに認識しています。

(大野)

今の後段の件ですが、ご質問の内容にはっきりお答えできるか分かりませんが、この金沢市さんの例を見ていただくように、伊勢の場合も、従業員の飲食に伴う部分については市のほうで回収をさせていただきます。その他の大量に出る部分については当然事業者のほうで産廃として処理をお願いしております。

先ほど、全部埋立に回っていくんじゃないかと言われましたが、今は受け入れ価格が上がっていますので、流れとしては有価として処理できるんじゃないかと。ペットについても、伊勢の場合でも容リルートは通していません。売り払って処理しています。プラスチックについても、管内の事業者で大量に出るところについては集めて、多分マテリアルには変わらずにサーマルになる場合もあるかと思いますが、そういう形で処理がされていると思っております。ですから、全部が全部埋め立てているのではないというような状況で理解はしております。

(司会)

よろしいでしょうか。

もう少し質問をいただきたいところなのですが、時間のほうが少しオーバーしましたので、2時より開催させていただきました本日のセミナーもこれでお開きとさせていただきますと思います。

皆様、本日の講師をお務めいただきました佐無田様、大野様、高橋様にお礼の拍手をいただければと思います。ありがとうございました。

ご来場の皆様、最後までご清聴ありがとうございました。

(終)

# 三重県 ごみゼロ事業者・県民セミナー

2008年2月20日

事業系ごみ減量に向けた現状と課題  
～金沢53ダイエットネットワークの取り組みから

佐無田 光(金沢大学経済学部)

# 金沢53ダイエットネットワーク

- 2004年10月発足：金沢市リサイクル推進課  
＋公募の市民＋事業者＋コーディネーター4  
名

## 《Mission》

- (1) ごみの排出抑制・削減
- (2) ごみ問題の情報共有・意見交換を行える場(組織)の形成
- (3) 地域社会におけるごみ責任文化の醸成

# 各部会の取り組み

- 普及啓発部会：見学会の企画、ごみダイエット塾、大学サークルと連携したリユース市など
- 紙ごみ・生ごみ減量部会：大型店駐車場における紙ごみリサイクル実験など
- 事業ごみ減量部会：ごみ分別ナビ、商店街の分別回収実験、取り組み事例集など

## 金沢市の一般廃棄物排出量の推移(単位:トン)

区分／年度		1999	2003	2006	変化
家庭系	燃やすごみ	94,495	90,314	90,883	-3,612
	埋立ごみ	11,024	13,503	7,831	-3,193
	資源ごみ	8,463	14,357	13,092	4,629
	集団回収	9,364	9,561	9,915	551
事業系	燃やすごみ	58,255	56,712	55,770	-2,485
	不燃ごみ	14,811	14,907	15,406	595
	資源ごみ	45	81	8	-37
一般廃棄物排出量合計		196,457	199,435	192,905	-3,552

# 事業系一般廃棄物の処理体制

- 事業系一般廃棄物：事業所から出る産業廃棄物20種類以外の廃棄物。
- 従業員の飲食に伴うびん、缶、ペットボトル、容プラ→市町村によって判断が異なる。
- 事業系廃棄物の処理責任は排出事業者。  
一般廃棄物の処理義務は市町村。  
→事業者が、一般廃棄物収集運搬の許可業者(21社)と個別契約し、有料収集(金沢市)。

## 廃棄物処理手数料(平成18年4月1日現在)

### 1. クリーンセンター搬入処分手数料

一般廃棄物収集運搬許可業者 168円/20kg

許可業者以外 20kgまで168円

20kgを越える10kgごとに84円/10kg

### 2. 戸室新保埋立場搬入処分手数料

2tを越える 945円/100kg

500kgを超え2tまで 840円/100kg

500kg以下 1,400円/1台

# 事業系一般廃棄物の問題(金沢市)1

- ごみ減量計画主体の不明確さ。
- 大規模排出事業所(計380事業所)には廃棄物減量化計画書の提出が義務づけられているが3分の1程度が未提出。会社名公表などの罰則は実施されていない。
- 総数3万弱の事業所のうち許可業者と契約しているのは約4千件。その他には行政指導どころかパンフ配布すらできていない。
- 優良廃棄物排出事業所表彰制度



## 事業系一般廃棄物の問題(金沢市)2

- ごみの分別・減量が進まない。
- 排出事業者が分別しても、収集業者は収集効率を維持するためパッカー車に混載。
- 契約の多くは収集回数で料金が決まるため、資源別の回収にするほどコスト増。
- 隣り合う事業所でも別個の業者と契約。地区単位で一括して収集する体制になっていない。
- 事業所から出るペットや容プラは容リ協会のリサイクルに回らない。→埋立搬入禁止へ

# 事業系ごみ減量部会の取り組み1

- 事業所ごみ分別ナビの作成。
- 先進的な取り組み事例をモデルにして、①廃棄物削減計画策定の手順を示し、②社内イントラネットを使って、分別早見表、廃棄物保管場所レイアウト、リサイクルルート、回収日時などを案内する。
- 金沢信用金庫、渋谷工業で導入実験。
- コスト削減効果を報告（日海不二サッシ）

もやすゴミBOX	ミックスペーパー	プラスチックBOX		もやさない
(一般ゴミ)	(リサイクル紙類)	(事業系・廃プラスチック)	(一般・廃プラスチック)	ゴミBOX
(紙類)	※ティッシュペーパー、汚れた紙等、左記もやす紙以外は、紙の大きさを問わず全てリサイクル紙類です。 <b>本、雑誌類は各階新聞紙置場をお願いします。</b>	事業系廃プラ(産業廃棄物)は、専用の事業系廃プラBOXへ。 <b>発泡スチロールはB2の産業廃棄物置場をお願いします。</b>	職員の飲食等に伴う廃プラは、プラスチックBOXへ。	(埋立てゴミ)
・ティッシュペーパー	・シール、シールの台紙	・ボールペン、蛍光ペン等プラスチック製文具類、容器類	・ホリ袋類 (菓子袋、スーパーの袋)	・電気コード類
・汚れた紙	・付箋紙	・フロッピーディスク	・ラップ類 (タバコ、カップ麺等の包装用フィルム)	・歯ブラシ
・金紙・銀紙等 (ガム・チョコレートの包装紙等、紙の表面に金色・銀色等のコーティング加工した紙)	・コピー用紙	・ビデオテープ	・ペットボトルのキャップ等プラスチック製のキャップ	・百円ライター (使い切ったもの)
・アルミホイル	・紙袋、紙の箱 (つぶしてから入れて下さい)	・カセットテープ	・プラスチック製のカップ、パック	・台所用スポンジ
・弁当等のアルミ箔	・タバコの箱	・デスクマット	・薬を包むシート	・手袋、長靴(ゴム製品)
・印刷機の使用済マスター	・商品カタログ	・クリアファイル	・ストロー	・使い捨てカイロ
・花	ティッシュペーパーの箱	・PR用うちわ	・コーヒーフレッシュの容器	・ハンガー (木製、プラスチック製)
・輪ゴム	・パンフレット、チラシ	通帳のビニール袋	・歯磨き粉、歯ブラシのパック	・傘
・履き物(靴、サンダル等)	・菓子の紙	・PPバンド(荷造用)	・その他「プラ」マークのあるもの	(布・ビニールを除けば金属ゴミです)
・布製品(含む衣類)	・包装紙	・ビニールのひも		
・ストッキング	・連続記録用紙の耳の部分	・その他事業活動に伴い排出されるプラスチック製品		
・乾燥剤、保冷剤、靴などの脱臭剤	・封筒 (窓付封筒のフィルムは剥がして、フィルム部分は事業系廃プラBOXに入れて下さい)			
・ガムテープ	・紙コップ、紙パック (必ず洗浄してから入れて下さい)			
・ナイロンでコーティングした紙(破れない紙)	・紙製ファイル (金属・プラスチック部分は極力取り外して下さい)			
・ナイロンでコーティングした紙(破れない紙)				
・木製品(割り箸、鉛筆等)				
・インクリボン				



可燃ごみ

プラスチック

ラビニール

ゴム類

白コピー紙屑

雑誌

新聞



保

FRS-II 70

FP-AT70-100  
FD-70-100  
ハンガー引戸他

切断・曲げ・溶接・塗装・R曲げ

機械室

塗装室

乾燥室

グ  
ラ  
イト室

⑧

⑥⑦⑤④

# 3R 運動

分ければ資源(お金) 混ぜるとタダ(¥0)のゴミ

リデュース(減量) リユース(再使用) リサイクル(再資源化)

分別スクラップ種類	廃棄 可 廃棄 不可	売却単価 ¥/kg	1箱重量 kg/箱	売却金額 ¥/箱
① アルミ型材	ブルー養生付	¥155	400kg	¥62,000
② アルミ切カス	ブルー養生付 切断カス・プレスカス 切粉は混在させない	¥120	800kg	¥96,000
③ アルミ切粉	ブルー養生付 清掃時のビス・ゴミ等	¥40	400kg	¥16,000
④ アルミ板材	ブルー養生付 生材・処理材 グライト・シール付	¥145	1,000kg	¥145,000
⑤ スチール板材	ペントイト鋼板・錆止め塗装 グライト付・ZAM・形鋼・メッキ等	¥10	2,000kg	¥20,000
⑥ ステンレス板材	板材・防鳥網・防虫網 ステンレス下枠	¥70	1,200kg	¥84,000
⑦ 雑多	グライト付・ZAM・形鋼・メッキ等	¥0		
⑧ ビス・ビット	5T 通用口横の専用箱	¥8		

各ラインで分別収集を行い上記に従い所定の箱に廃棄すること!  
他の物を混ぜると売却金額が¥0となるので徹底すること!  
雑多でも同一の物が大量にある場合はコスト管理室まで確認!



0404  
一部のお客様よりお問い合わせいただきました。ご質問にお答えするため、このパンフレットを作成いたしました。ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

0404  
工場から出る廃棄物を分別して分別回収し、リサイクルすることで、資源を有効活用し、環境を保護することができます。



0404  
分別収集の目安を以下に示します。

- アルミ 25kg
- 鉄 5kg
- ステンレス 5kg
- 銅 10kg
- 鉛 20kg
- 鉛 100kg
- その他 2kg
- その他 2kg



0404  
本パンフレットは、廃棄物の分別収集の目安を示しています。ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



0404  
¥800/1袋 ¥4,800/1袋  
本パンフレットは、廃棄物の分別収集の目安を示しています。ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



# 事業系ごみ減量部会の取り組み2

- 商店街における分別回収提案。
- 金沢豎町商店街：商店街組合指定の有料ごみ袋に入れた「燃えるごみ」と段ボールを契約業者が共同回収。
- 店舗アンケートを実施し、内容物として紙類がほとんどであることを確認。→新聞・雑誌・チラシ・その他紙ごみの分別回収を提案。
- 収集現場を視察し再提案。



# 事業系ごみ減量部会の取り組み3

- 事業系ごみガイドラインの作成に向けて。
- 分別と処理の仕方、法令・手続き。
- ごみ減量の案内：分別ボックス・分別早見表、チェックリスト、取り組み事例など。
- 減量・資源化のメリット：コスト削減、企業イメージ、社員の意識改革。
- ガイドラインをもとに、企業の廃棄物管理担当者の研修事業を（構想）。

# 今後の課題

- ごみ収集有料化への議論の提起。
- 環境総務課とリサイクル推進課の縦割り行政  
問題：事業系一般廃棄物の共同収集体制への話し合い提起。
- 収集システム改革の問題提起：搬送容器の  
共通化、品種別収集日設定、収集拠点（ステーション搬出）設置、「積み替え保管」「選別」の許可など。

# レジ袋大幅削減・マイバッグ持参運動

－ レジ袋有料化に向けて －

平成20年2月20日  
伊勢市環境部資源循環課

**市長マニフェスト**  
**環境・健康・観光：3K**

**環境：環境と共生できるまち**  
**CO2削減・ごみゼロ推進（レジ袋大幅削減）**

**健康：健康づくりと文化の生きるまち**  
**メタボリック症候群（メタボ侍）**

**観光：観光が輝き・産業の元気なまち**  
**神宮式年遷宮**

# 今までの取り組み

平成13年12月

伊勢市オリジナルマイバック全戸配布

平成15年4月

可燃ごみの指定ごみ袋制度導入

不燃ごみ・ペットボトル・容器包装プラスチック

レジ袋等で出せない



**Big 大きいもの**

サイズ……縦 33cm、横 42cm、幅 30cm  
特徴……保温性能のある素材を使用。外側、内側にポケットが付いている。1かきんちやくのようにしぼれるので、袋の中身が飛び出さない。レジカゴにすっぽり入る。

①紺

②ベージュ

③緑

内側にはやや厚いシートが貼られています

生地の色は、①～③の3種類があります。

※①～③は、色が異なるだけで、大きさ、機能等は同じです。

肩に掛けて持ち歩くこともできます



# レジ袋大幅削減・マイバッグ持参運動

## 4月に市長から指示

### 【目的】

地球温暖化防止と循環型社会構築に向けた環境配慮を目指し、地域レベルでのレジ袋削減・マイバッグ持参運動の推進を図る

**スーパーのマイバッグ持参率（有料化実施前）**

**約22%**

**※資源循環課調**

## キーポイント

市民・事業者・行政が連携・協力して  
取り組んでいく仕組みづくりを構築する

マイバッグ持参によるレジ袋の大幅な削減  
とその有効な手段としての方策などについて  
市民・事業者・行政が自由な立場で意見  
交換や情報交換を行う検討会を6月1日に  
設置。

ええやんか！マイバッグ  
(レジ袋有料化)検討会

# ええやんか！マイバッグ（レジ袋有料化） 検討会メンバー

## ・市民団体

伊勢市ごみ問題市民会議、伊勢市婦人会連絡協議会  
伊勢市PTA連合会、コラボいせ、伊勢・水の会

## ・事業者

イオン株式会社、株式会社オークワ、株式会社ぎゅーとら  
株式会社とよはた生鮮市場ベリー、生活協同組合コープみえ  
マックスバリュ中部株式会社、株式会社ユーストア  
伊勢市商店街連合会

## ・協力団体

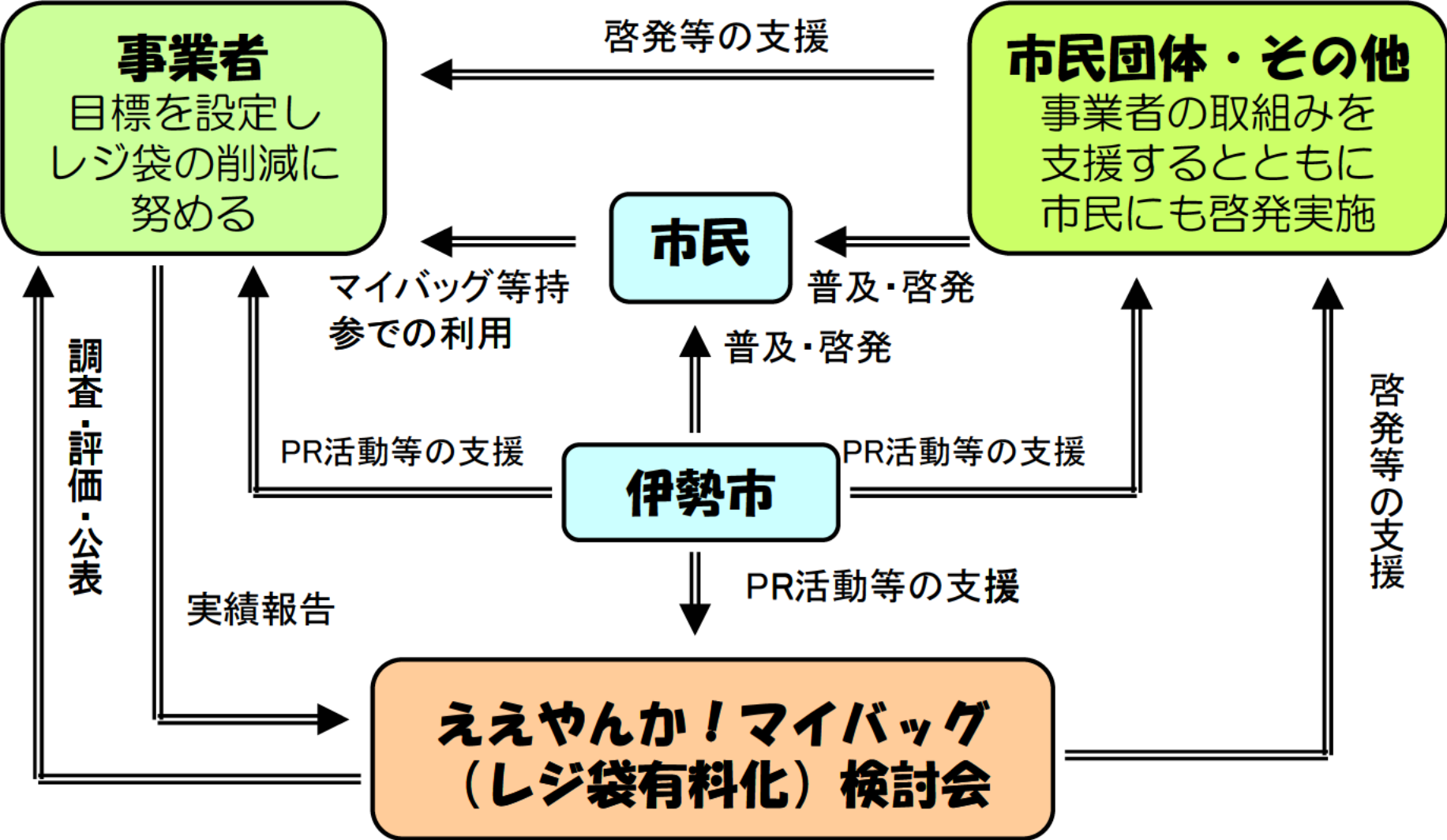
伊勢商工会議所、三重県地球温暖化防止活動推進センター  
伊勢ポイントカード協同組合

## ・行政

伊勢市、三重県



# 役割分担



# レジ袋削減・マイバック持参イベント

- ・キックオフイベント(6/17)

・オープニング有緝小学校コーラス

・基調講演

三重大学人文学部教授・学長補佐

朴 恵淑

イオン(株)グループ環境・社会貢献

活動担当 上山 静一



・シンポジウム

事業者・市民団体・小学生・市長



# 店頭・街頭キャンペーン

- 7事業者21店舗:各3回 伊勢市・宇治山田

8/4~9/9までの土・日曜日      9/15・16      9/21

市民団体・伊勢市婦人会・検討会・三重県





# レジ袋大幅削減のためのマイバッグ持参運動 及びレジ袋有料化に関する協定式

イオン、オークワ、ぎゅーとら、生活協同組合株式会社、ユーストア株式会社とよはた、マックスバリュ中部株式会社（7事業者）

伊勢市駅前商店街振興組合、伊勢銀座新道商店街振興組合、栄町商店会  
伊勢高柳商店街振興組合、伊勢明倫商店街協同組合、浦口商店会  
浦之橋商店街振興組合、さくら通り発展会、神宮参道発展会  
二俣辻久留商店街（10商店街）

## 協力団体

伊勢商工会議所、三重県地球温暖化防止センター

## 市民団体

伊勢市ごみ問題市民会議、伊勢・水の会、コラボいせ  
伊勢市婦人会連絡協議会、伊勢市PTA連合会



# レジ袋大幅削減・マイバッグ持参運動経緯

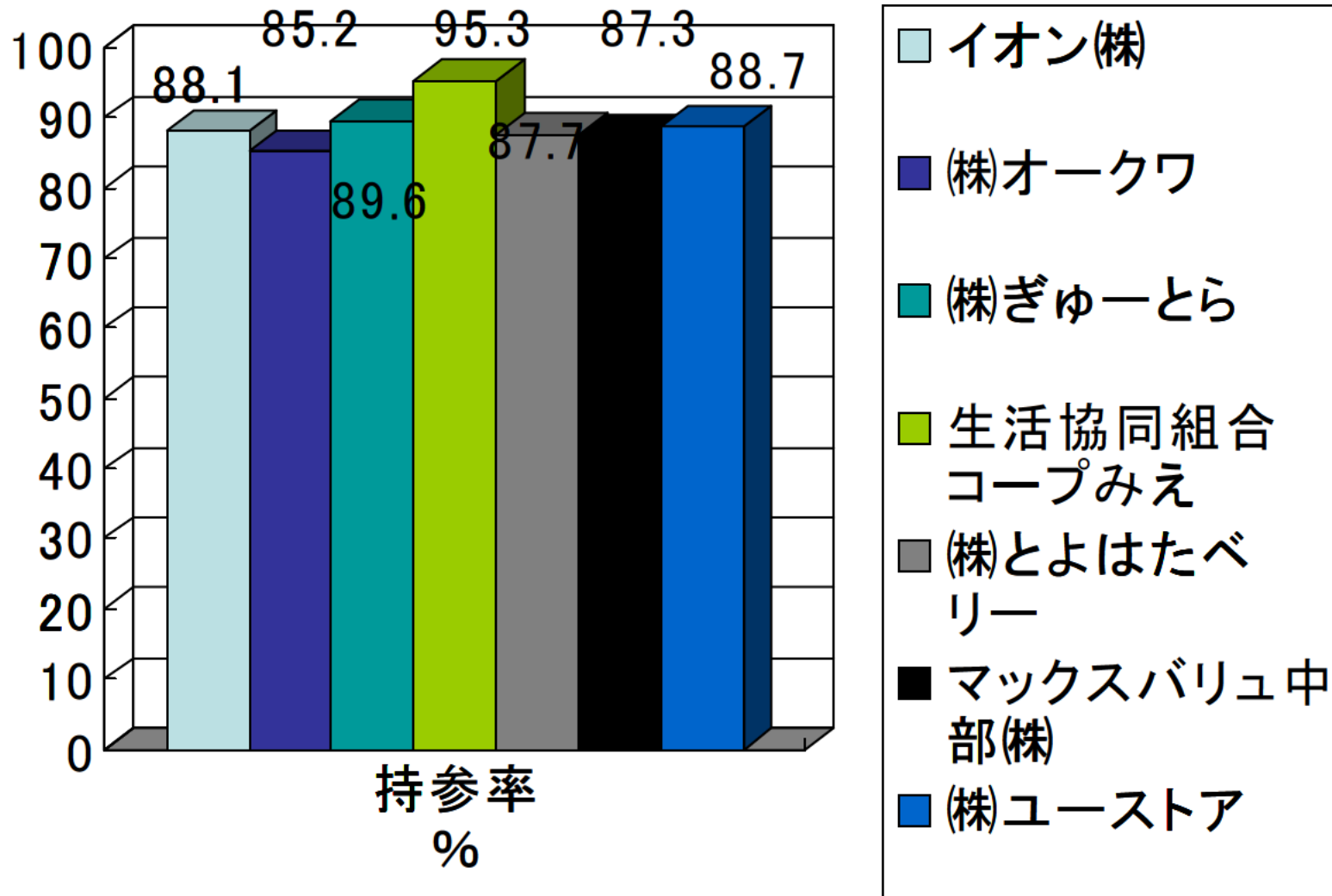
- 4月18日(水) 第1回 庁内プロジェクト会議
- 5月 1日(火) 第1回 レジ袋削減に関する懇談会(仮称)  
発足準備会として開催・今後の進め方・参加者検討
- 6月 1日(金) 第2回 レジ袋削減に関する懇談会(仮称)  
ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会と名称決定  
座長選任・キックオフイベントの実施
- 6月17日(日) **レジ袋削減・マイバッグ持参イベント 参加者約300名**
- 6月19日(火) 第2回 庁内プロジェクト会議  
キャンペーン等の方策等検討
- 6月29日(金) 第3回 ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会  
協定内容・実施時期・キャンペーン
- 7月 6日(金) 第4回 ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会  
今後のスケジュール・記者発表
- 7月13日(金) 共同記者発表**  
**市内のスーパー全てが有料化実施を表明**

- 7月20日(金) 第5回 ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会  
協定内容・募集要項
- 8月 3日(金) 第6回 ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会  
協定内容・キャンペーン
- 8月 4日(土) 店頭キャンペーン実施(8/4~9/9までの土・日曜日)  
7事業者21店舗:各2回  
(市民団体・伊勢市婦人会・検討会・三重県)
- 8月24日(金) 第7回 ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会  
協定書の確認・協定式
- 9月15・16日 店頭強化キャンペーン実施(7事業者21店舗)
- 9月11日(火) レジ袋大幅削減のためのマイバッグ持参運動及び  
レジ袋有料化に関する協定式**
- 9月21日(火) 駅前(伊勢市・宇治山田)キャンペーン実施

**9月21日(金) レジ袋有料化実施**

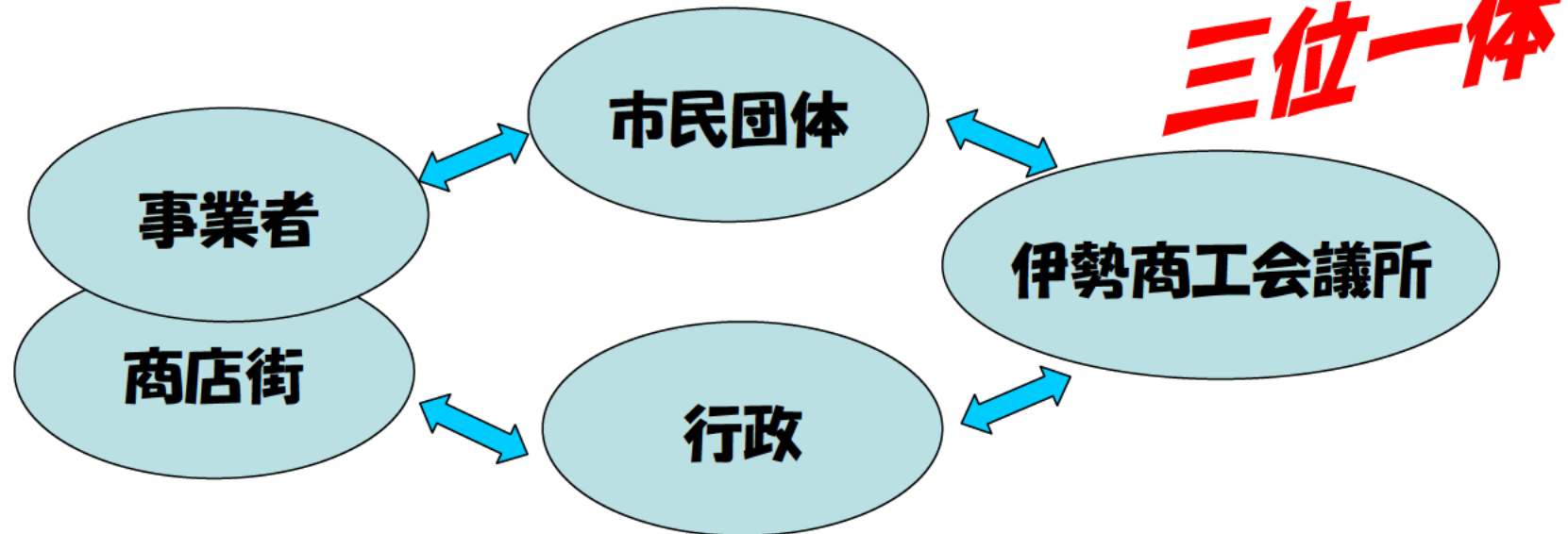


# マイバッグ持参率



# 伊勢モデル

市民団体・事業者・行政の連携



いままでの取り組み

(マイバッグ・レジ袋を使わないごみの出し方)

市民団体の啓発・支援、マスコミ

大手スーパーが足並みを揃えて実施

# <ぎゅーとらレジ袋削減の取り組み>

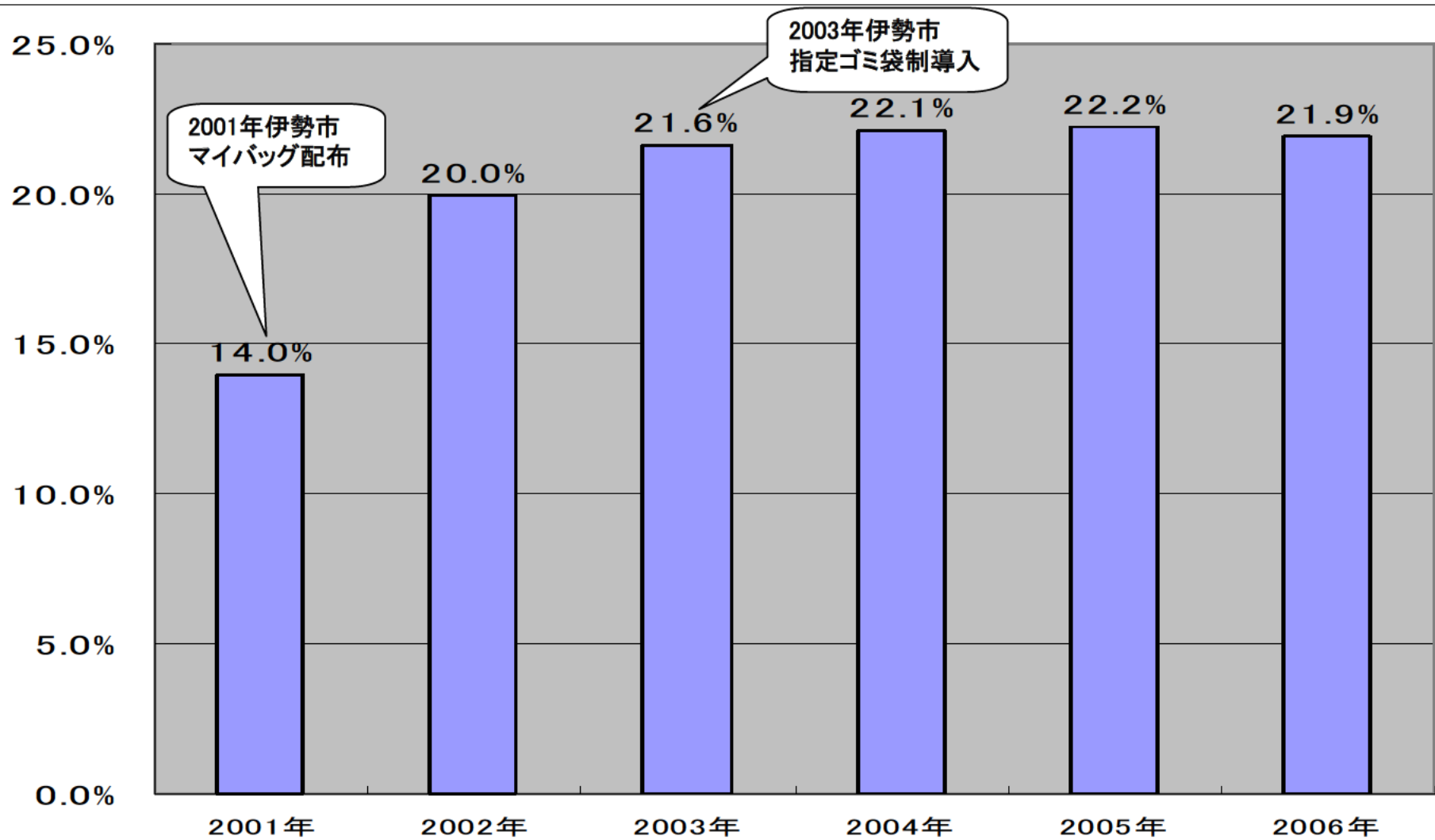


# 『ぎゅーとらのマイバッグ持参運動』

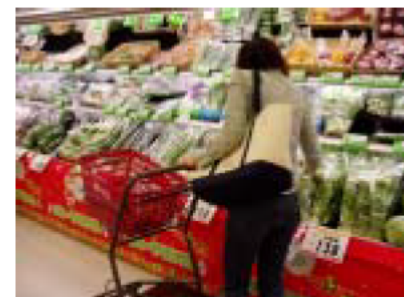
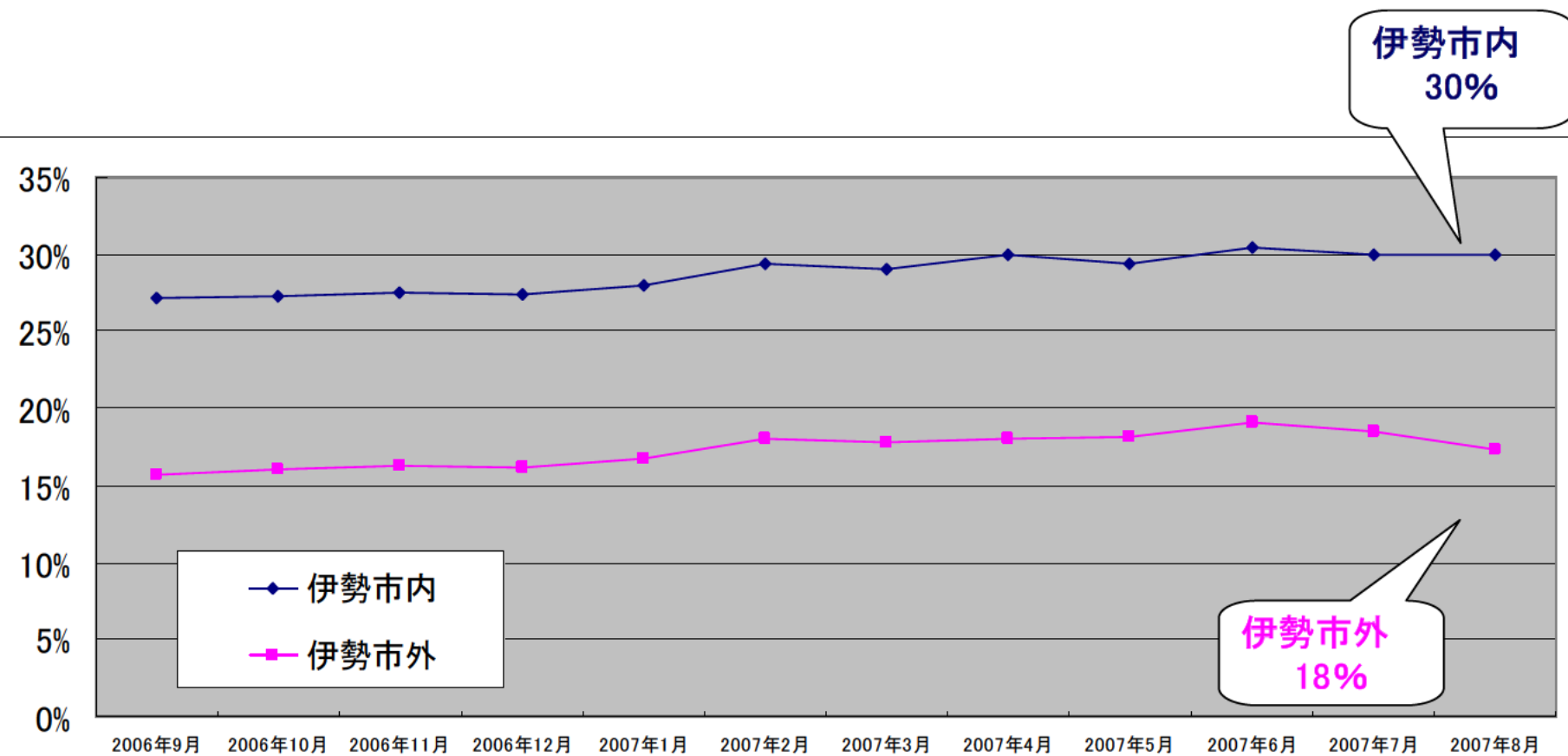
- 2000年5月      マイバッグ持参運動スタート  
    ～レジ袋を断っていただいた方にエコポイント進呈～
- 2001年3月      ISO環境マネジメントシステム認証取得
- 2001年9月      マイバッグ持参率 平均12%
- 2001年12月     伊勢市が各家庭にマイバッグを配布
- 2002年度        マイバッグ持参率 平均20%
- 2003年          伊勢市指定ゴミ袋導入
- 2003年度        マイバッグ持参率 平均22%
- 2007年8月      マイバッグ持参率 平均25%
- **2007年9月**      **レジ袋有料化スタート**



# マイバッグ持参率の推移～全店平均～



# マイバッグ持参率の推移～伊勢市内、伊勢市外店舗との比較～



# 『レジ袋有料化までの動き』

2007年4月 伊勢市よりレジ袋削減についてのお話  
伊勢市長来社

今まで無料で配っていたのに、お客様は納得してくれるのか？

お客様が違うスーパー、他の市に買い物に行くのでは？

2007年5月 伊勢市でレジ袋大幅削減のための検討会が発足

2007年5月 社内でレジ袋有料化準備プロジェクト立上



- 2007年6月      マイバッグ持参シンポジウムに参加
- 2007年7月      社内会議にてレジ袋有料化正式発表
- 2007年8月      市民団体による店頭キャンペーン始まる  
京都のレジ袋有料化店舗見学
- 2007年9月      マイバッグキャンペーン実施  
レジ袋大幅削減のための協定式

9月21日      伊勢市内9店舗でレジ袋有料化





# 「伊勢市と力を合わせて取り組もう！」

～伊勢市と一緒にやっています！伊勢市がポスターを作成してくれました～



＜伊勢市作成のポスターは  
全てのスーパーに掲示＞



＜4ヶ国語（英語、韓国語、中国語、  
ポルトガル語）のポスター＞

# 「市民団体と力を合わせて取り組もう！」

～お客様も伊勢市の取組みに賛同しましょう～




＜市民団体の方が、店頭でお客様に呼びかけてくれました＞



# 『マイバッグキャンペーン』



<ぎゅーとらオリジナルマイバッグ>

- ・ **CGCエコバッグプレゼント**  
お客様に有料化に向けてプレゼント  
従業員の買い物もマイバッグ
  - ・ **ぎゅーとらオリジナルマイバッグ・  
マイバスケットプレゼント**
  - ・ **有料レジ袋お試しキャンペーン**  
有料化案内のリーフレットと一緒に配布
- 
- ・ **子供達からのメッセージをBGMに♪**



<有料レジ袋の見本>



<有料レジ袋の案内>




**マイバッグ**  
 持参運動を推進しています。

お買い物には、  
**マイバッグ**  
 ご持参にご協力をお願いします。

未だ地球温暖化防止のため、  
 地球環境にやさしいマイバッグの持参を推進しています。

マイバッグの持参を推進しています。

レジ袋無料配布中止に伴う  
**特別対応させていただく袋**  
 ・包装基準について

ご持参されたお買い物かご・  
 マイバッグなどに入りきれなかった場合  
**レジ袋を1枚5円にて**  
**販売、またはお買上げテープ**  
**を貼付させていただきます。**

**大型パック商品**  
 ご入用のお客様には  
 専用の袋を  
 レジにてお渡しします  
対象の大型パック商品以外での  
 専用袋のご利用はご容赦下さい

**お米 10kg**  
 ご入用のお客様には  
 専用の袋を  
 レジにてお渡しします  
対象商品以外での専用袋の  
 ご利用はご容赦下さい

**お弁当・お寿司**  
 ご入用のお客様には  
 専用の袋を  
 レジにてお渡しします  
対象商品以外での専用袋の  
 ご利用はご容赦下さい

**切り花**  
 ご入用のお客様には  
 専用の袋を  
 レジにてお渡しします  
切り花以外での専用袋の  
 ご利用はご容赦下さい

上記以外の商品につきましては **原則そのままの形での**お渡しとなります。  
資源の節約・レジ袋の削減のため、同じ用途・用途へのご協力・ご努力をお願いいたします。  
 ご不明な点がございましたら、レジ担当までお問合わせ下さい。

＜マイバッグ持参推進ポスター＞



＜特別対応させていただく包装基準＞

# 『従業員も何かを始めよう！』

～従業員自ら環境に良いことをしよう！～

1. 休憩時の食事にレジ袋は  
つけない、もらわない。  
買い物はマイバッグ持参。



『レジ袋削減は、従業員から始めましょう』



# 『従業員も何かを始めよう！』

～従業員自ら環境に良いことをしよう！～

2. お昼の食事にはマイ箸を持参して、割り箸は使わない、もらわない。



ペットボトルで  
作りました

<店舗休憩室のマイ箸置き場>

<本社お弁当置き場には貸出用の箸>



# 『従業員も何かを始めよう！』

～従業員自ら環境に良いことをしよう！～

3. 会議での試食も割り箸を使わず、マイ箸を持参しよう。



『資源の節約、使い捨ての見直しを  
従業員から始めましょう』





# 『レジ袋有料化後の持参率』

伊勢市内 91%

伊勢市外 23%



～伊勢市外の店舗もレジ袋有料化後5%上がっています～



# 『マイバッグ店別持参率』

実施前	店名	実施後(9/21~9/30)	2007年10月	2007年11月	2007年12月
24.3%	八間通店	85.8%	88.7%	89.4%	89.1%
26.7%	辻久留店	85.8%	88.4%	88.9%	88.8%
31.6%	二見店	89.3%	92.4%	93.1%	92.6%
29.6%	小俣店	87.2%	90.7%	91.3%	91.1%
30%	神田久志本店	86.7%	89.9%	90.2%	90.3%
31.4%	藤里店	88.3%	90.9%	91.5%	91.1%
38.5%	コア店	90.4%	92.6%	93.2%	93.1%
35.6%	ハイジー店	89.5%	92.0%	92.4%	92.1%
21.9%	エンジェル店	86.2%	88.1%	88.7%	89.0%
<b>30%</b>	<b>伊勢市内全体</b>	<b>87.9%</b>	<b>90.7%</b>	<b>91.2%</b>	<b>91.0%</b>



# 『レジ袋有料化後の削減実績』

レジ袋枚数 **200万枚**

約5ヶ月で削減されました。

レジ袋1枚あたり原油約20ml  $20\text{ml} \times 200\text{万枚} = 4\text{万リットル}$

原油4万リットルは、

ペットボトル(2リットル)⇒2万本

ドラム缶(200リットル)⇒200本



# 『レジ袋有料化後の削減実績』

レジ袋1枚燃やすと、重さの6~7倍のCO2が排出されます。

ぎゅーとらのレジ袋1枚 6.5g

1枚あたりのCO2排出量  $6.5\text{g} \times 7\text{倍} = 45.5\text{g}$

$200\text{万枚} \times 45.5\text{g} = 9100\text{万g} = 91\text{トン}$

約5ヶ月で **91トン CO2削減**



# <ぎゅーとらが成功した3つのポイント>

## 1. お客様の環境意識が高い

- 有料化前から30%の持参率
- 無料ならもらおう⇒有料だったら必要なければ買わない
- 買った袋は大切に使う、何回も使う

## 2. 伊勢市（行政）・市民団体・事業者が一緒になって取り組んだ。

- 伊勢市内全スーパーが足並み揃えて実施

## 3. チェッカーの親切な声かけ

- トレーナーが店舗にて教育
- お客様からのQ&A作成
- ロール・プレイングの実施



ぎゅーとらでは、お客様・地域の皆様に喜んでいただけるイベント・キャンペーンを実施しています。

親子で自然とふれあう「大内山牧場ツアー」、食育を通して食の大切さ・食の成り立ちを伝える「保育園・幼稚園でのお餅つき」、地域のスポーツイベントなど、CSR活動の一環として取り組んでいます。



『環境のことを子供たちに伝えていこう』





2007年の地球



2053年の地球

「ごみはごみ箱にきちんと捨てる」  
「食べ物は残さないで大切に」  
「レジ袋は大切に使おう」



ぎゅーとらが環境のこと、  
食べ物大切さを伝えていこう！



ご協力お願いします

お買い物バスケット  
レジかご用マイバッグに限り  
(レジかごに添うようにセットできるもの)  
レジ精算の際の袋詰めサービスを承ります。



上記以外のマイバッグにつきましては、  
誠に恐れ入りますが、  
お客様ご自身での袋詰めを  
お願い申し上げます。

スムーズなレジ精算にご協力お願いします

〈レジでの袋詰めサービス案内〉

 **ぎゅーとら**の

伊勢市レジ袋有料化後の  
マイバッグ持参率は…

**91%!**



マイバッグ持参運動にいつもご協力ありがとうございます。  
地球環境のためにこれからもマイバッグ、マイバスケットでお買い物しましょう。

〈お客様へマイバッグ持参率の経過報告〉

 **ぎゅーとら**



ご清聴ありがとうございました。



## ご来場いただいた方へのアンケート結果

回収枚数：83枚

佐無田氏、大野氏、高橋氏、3氏のお話については、「大変参考になった」「まずまず参考になった」とされた方が9割を超え、おおむねご好評をいただきました。

ご記入いただいた、主なご意見等をご紹介します。

### 事業系ごみの減量関係

- ・事業系ごみ減量の仕組みづくりを進める中では合理性が必要だと思った。
- ・事業系ごみの現状や問題点がよく分かった。
- ・全事業所ひとまとめで進めるには無理があるので、事業所別・規模別等で対象ごみを変えるなどの施策が求められるのでは。

### 伊勢市レジ袋の有料化関係

- ・市長も先頭に立つ中で、事業者・団体・行政の三位一体でレジ袋の有料化を実現したことに感銘を受けた。
- ・伊勢市だけではなく、三重県全体、全国へと広めてほしい。
- ・ぎゅーとらさんの、「5ヶ月でレジ袋200万枚削減」という数字には驚いた。従業員の方々の環境意識の高さにも感心した。
- ・市内の全てのスーパーが取り組んだことに感動しました。
- ・レジ袋でごみを出せないことは良いことだと思う。
- ・首長が前向きに取り組むことで実現されると感じた。
- ・当町でも取組を検討していきたい(町担当者)。
- ・この取組によって、どのくらいごみの減量がされたのか、データとして示されるとなおよい。

### その他

- ・企業におけるCSRを大切にすべきである。
- ・環境への意識という点で市民と事業者との温度差に驚いた。
- ・地球温暖化防止やごみ問題に貢献しているようなことであったが、企業・行政のまやかさに聞こえた。

など、沢山の貴重なご意見をいただきました。  
ありがとうございました。